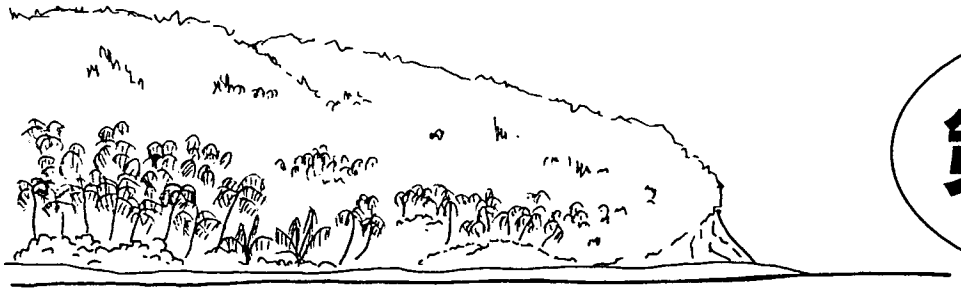
北スラウェシ日本人会
NORTH SULAWESI JAPAN CLUB

日本人会会報

# Tarsius

# タルシウス



第16号

平成21年1月

# 目　　次


| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 2009年を迎えるにあたって | 後藤　昭 | 2 |
| 2 | エチオピアについて（その2） | 石野　赫 | 3 |
| 3 | 黒曜石の道探検隊に参加して | 川口　博康 | 4 |
| 4 | インドネシアの看護師・介護福祉士受け入れについて | 坂本　裕保 | 6 |
| 5 | 外国人船員の日本漁船への乗り組み | 金城　力人 | 9 |
| 6 | 沖縄大学スタディツアー報告 | 宜野座　剛 | 19 |
| 7 | 慰霊の辞 | 糸満　盛健 | 20 |
| 8 | 慰霊祭の挨拶 | 上田不二夫 | 21 |
| 9 | インドネシアよ永遠なれ（金子智一氏受章記念誌） | | 22 |
| | 編集後記 | | 39 |

# ２００９年を迎えるにあたって

在マカッサル日本総領事館
後藤　昭

皆様におかれましてはどのような新年を迎えられたでしょうか。

昨年１１月に、スラウェシシ島北部で大きな地震が発生しましたが、在留邦人の中で被災された方がいなかったことは誠に不幸中の幸いでした。

ご承知のようにインドネシアは地震多発国であり、北スラウェシ州やゴロンタロ州を含むスラウェシ州北部も頻繁に地震が発生する地域です。地震という自然現象を前にしては我々人類のなす術は限られてしまいますが、それでも我々は自然災害に対して防災ということを忘れてはなりません。

鳥インフルエンザは必ずしも自然災害とはいえないかも知れませんが、我々は自然災害に対する防災と同じように鳥インフルエンザに対しても準備（緊急用としての食料備蓄を含む）をしておくべきと考えます。ご承知のように、インドネシアは鳥インフルエンザ感染死者数がダントツの世界一です。これは不名誉な世界一には違いありません。なぜインドネシアに圧倒的に多いのかはわかりません。たぶんいろいろな要因があるのでしょう。

新型インフルエンザ（鳥インフルエンザ・ウイルスが人に感染し、人の体内で増殖できるように変化し、人から人へと効率よく感染できるように突然変異を起こし、そのウイルスが圧倒的な早さで感染する）は何時発生してもおかしくない状況にあるとＷＨＯ（世界保険機構）の専門家は発言しています。この新型インフルエンザの世界的な大流行（パンデミック）が発生すれば瞬時にして世界中に甚大な被害をもたらすことも予想されています。総領事館からは主として「総領事館からのお知らせ」で可能な限りインドネシアにおける鳥インフルエンザに関する情報を提供していますが、皆様におかれても常日頃から関連情報に注意を払い、防災意識を持たれることをお勧めします。

在マカッサル日本総領事館は昨年末に廃止となり、１月１日より在インドネシア日本大使館を親公館とする駐在官事務所（Consular Office of Japan in Makassar）に生まれ変わりました。ただし、場所も業務内容も変わりません。従いまして、邦人の皆様におかれては、従来どおりに当事務所に接していただければと思います。

総領事館が廃止されたことに伴い、総領事ポストはなくなりました。私は近々、当地をはなれ帰国する予定ですが、当地に着任して４年弱の期間、皆様と親しく接することができたことは欣快の至りです。

# エチオピアについて（その２）

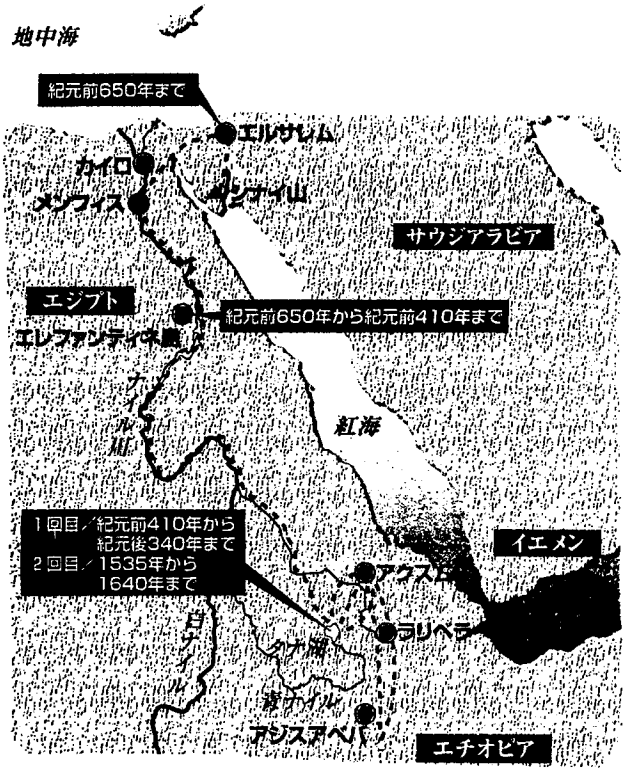
石野　赫　記

前号に引き続きエチオピアについて書かせてもらいます。

前号では、「この国にも建国伝説があり、シバの女王とイスラエルのソロモン王との間の息子メネリクＩ世が初代皇帝であったと言われています。そして彼がイスラエルより「契約の箱」アークを持ち帰ったとされ、今は聖地アクスムの教会に収められていると言われています。このソロモン王朝は、最後のハイレ・セレシエ皇帝に至るまで、２７３代続いたとされています。」と記しました。

皆様ご存知の通り「契約の箱」とは、シナイ山で神がモーゼに授けた「十戒」が刻まれている石板を納めた聖なる箱です。それが、３０００年前エルサレムの神殿から忽然と姿を消しました。その行方は、まったくもって解らなくなっています。

ところが、エチオピアの人々は、シバの女王の息子メネリクが成長してエルサレムにいる父ソロモンを訪問した際、神殿からアークを持ち出し、ナイル川を遡り、更に支流アトラバ川沿いにエチオピアへ持ち帰ったと信じています。現在、エチオピア北部にあるアクスムの「シオンの聖マリア教会」礼拝堂に納められているのだそうです。




この礼拝堂に入れるのは、認められた修道士唯一人だそうで、その修道士はアークの番人として、一生をその中で過ごすのだそうです。

旅行会社のエチオピア案内書を見ますと、この教会の謂れが掲載されていますが、「観光では入場できませんのでご了承下さい」とあります。

インドネシアに足掛け３０年関係して、土地とそこに住まう人々の神秘性を体験してきましたが、今エチオピアという自分にとって全くの新しい国を知るにつれここでも神秘性を感じています。

左にアークが運ばれたとされる道を、旅行案内書から失礼して転載させて貰いました。

（その２）　完

# 黒曜石の道探検隊に参加して

川口　博康

私の住む御前崎には「星の糞」という縄文時代の遺跡があります。

私がこの探検隊に参加するきっかけとなったのは生涯学習講座のチラシが目にとまったからでした。６０歳で定年となり故郷に帰ってあっという間に５年が経ってしまい、もう少し故郷のことを知りたいなと思っていた矢先にこの講座に出会ったわけです。

「星の糞遺跡」、なんだか変わった名前だな、何で糞とつけたのか。この辺からがこの探検の始まりでした。

「星の糞遺跡発掘調査報告書」によれば、この遺跡は縄文前期（5000～6000年前）のものだという。はるか彼方に住んでいたという自分達の先祖のことが気になりだしたのは、この遺跡を探検したときに始まります。アフリカでヒト＝ホモサピエンスが誕生したのは、１０万年も前という。アフリカからここにたどり着くまでにどんな旅をしたのだろうか。

星の糞とは、黒曜石の破片がたくさん固まって落ちているところをいうのだと解説していただきました。探検隊の目的は、大量に発掘された黒曜石がどこからきたのか、そのルーツを探ることにあります。今回の探検のハイライトは信州の「星の糞峠」です。希望に胸をふくらませた隊員１８名を乗せ、バスは針路を北にとって出発しました。

御前崎の遺跡に黒曜石の破片があることについては、探検隊員の多くが「塩の道」を使って御前崎まで運ばれたものだと信じていました。また、ガイドの方は「星の糞」の意味について「ごみが集まったものを糞と言っていたことから、黒曜石がキラキラ光る＝星、大量に集まったゴミ＝糞、このようにして“星の糞”となった」、との説明がありましたが、正直なところ半信半疑でした。

当時、御前崎の星の糞遺跡からは、神津島から運ばれてきた黒曜石で作った矢じりが大量に発掘されていることから、遺跡が兵器製造場であったことは間違いないらしい。この矢じりは交易にもつかわれたであろう。また、魚獲りの魚網に使われたとみられる石錘も非常に多い。この二つのことから、我が御前崎が縄文の時代から遥かな神津島と交易を行い、漁業も盛んであったことがわかります。

今回の探検で茅野市尖石縄文考古学館を訪ね、出会ったのが「縄文のビーナス」と「仮面の女神」でした。私はこの探検隊に参加し、たくさんの遺跡を見て歩きましたが、この「縄文のビーナス」に出会ったときの感動はなによりも衝撃的で、しばらくの間私の脳裏からはなれませんでした。この辺から「縄文人たは何だろう」と興味を持ち始め、本などを買うようになり、正直私の縄文に対する興味は「縄文のビーナス」に出会ったときからはじまります。「縄文のビーナス」は我々が知っている西洋のビーナス像より遥かに神秘的であり、祈りが伝わってくることを感じました。縄文人というのは私が想像していたよりも遥かに優れたセンス・感性をもっていることを知りました。

2007年1月のセミナーで池谷先生によって「星の糞遺跡」の黒曜石は神津島のものであることが発表された。信州説が常識であった中で、「星の糞遺跡」から出土した黒曜石の９９％は神津島産と聞いて、隊員は皆驚いた。池谷先生は最もすすんだ年代測定法である「蛍光エックス線分析装置」を使って証明されたので反論の余地は少ない。私は先生の著書「黒潮を渡った黒曜石」に、先生のサインと共に「黒曜石がわかれば縄文時代がわかる」の添え書きもいただきました。

池谷先生は考古学者として従来の常識を覆すことの快楽をたっぷり味わったのではなかろうか。研究者冥利につきるとはこのことかと思います。

私の家は代々漁師で生計をたててきました。私も人生の半分以上は海に関わってきました。黒曜石は神津島から御前崎まで何らかの方法で運ばれていますが、海上から持ち込まれたことは間違いないでしょう。神津島から御前崎へというのは、方向としては黒潮に逆らうことになります。縄文人はどんな船を使って、どのような航法で黒曜石を御前崎まで運んだのか。何とかして証明してみたいものです。

縄文時代より後世のことになりますが、日本書紀に「軽野」の地名と言葉が出ているそうです。「軽野」は「カヌー」と同義語といわれています。茂在寅男先生著「古代日本の航海術」によれば、カヌーのアウトリガーもカタマランも古くからあったそうです。また「日本書紀」によれば、伊豆は造船地であり大木の多い天城地方から造船用の木を切り出したとあります。

狩野川も「軽野＝カヌー」に関係していないだろうか。「軽野＝カヌー」に関係した名称が全国に数多くあるそうです。

私は１昨年（2007年）パプアニューギニアに行ってきました。そこで見たのは丸木をくりぬいて造られたカヌーでした。パプア人の先祖はスンダランド（インドネシア）から渡ってきたそうです。日本人のルーツのひとつはスンダランドから来たというのが定説になりつつあります。おそらく縄文の昔に御前崎～神津島の交易をおこなった人々もスンダランド系のモンゴロイドではないかと考えられます。そのような仮説をたてて、パプアニューギニアあるいはインドネシアの皆さんの協力も頂きながら実証航海をしたいと勝手に夢をふくらませています。

今回こんなにも胸を高鳴らせ、楽しい夢をみられる探検隊に参加できたことは、素晴らしい思い出になりました。今回の参加をきっかけに隊員の皆様とも顔見知りになることができました。今までの人間関係のほとんどが仕事がらみであった私にとって、これは非常に新鮮なことでありました。

編集者からのお詫び　：川口さんの原稿には素敵な写真（カラー）が３枚そえられていますが、モノクロのコピーではうまく写りません。次号でカラーページにまとめる予定です。ご容赦ねがいます。

# インドネシアからの看護師・介護福祉士受け入れについて

坂本　裕保

インドネシアとの経済連携協定（ＥＰＡ）が今国会で承認され、急激な高齢化で人手不足が懸念される看護や介護の分野に、インドネシア人看護師が就労できるようになった。

専門的・技術的分野以外で、日本が外国人労働者に本格的に門戸を開くのは初めてのケースで、７月中には第一陣が来日の予定である。このことに対し、国内の看護師や介護福祉士の団体は、国内の（有資格者に対する）労働環境の整備が先決だと反対している。

「人手不足だから受け入れるのではない」。

厚生労働省は外国人看護師・介護福祉士のうけいれについて、「あくまでも特例的」と説明している。労働市場の開放を求めるインドネシア側の要求に基づき、ＥＰＡで受け入れを盛り込んだことに対応した措置との姿勢だ。

厚労省によると、資格がありながら働いていない潜在看護師が約５５万人、潜在介護福祉士が約２０万人いる。厚労省はこうした人材の活用などで人手不足に対応することを考えており、外国人労働者に頼ることは考えていないという。国内の労働市場はの悪影響を懸念し、受け入れは２年間で１０００人（看護師４００人、介護福祉士６００人）とおさえている。

このプログラムは、日本側は国際厚生事業団が唯一の受け入れ機関であり、インドネシア側はインドネシア海外労働者派遣保護庁（NBPPIW）が日本側の要請により、インドネシアの資格を持つ看護師を中心に募集、審査、選考を行う。

今回はジャカルタを中心に５００名を募集したようだが、募集期間が短かったこともあり３５０名の希望者のみであった。

選考された者は７月には日本入国の予定であるが、入国後６ヶ月の研修を受けなければならない。日本語６７５時間、習慣適応研修１４０時間、介護導入研修４０時間である。公表はしていないが、研修機関は（株）ニチイになるようである。

研修終了後、各受け入れ機関（病院、介護施設等）へ派遣され、３年以上（４年）日本人と同等の雇用条件で就労し、各年おこなわれる試験をへて、看護師、介護福祉士国家試験を受け、合格すれば日本で長期就労ができる（但し目的外就労はできない）が、国家試験に不合格の者は帰国しなければならないようだ。

３年以上の現場での就労は、受け入れ機関（病院、介護施設等）が彼女（彼）たちの世話をすることになるが、６ヶ月の事前研修をへての現場での就労は、苦労の連続ではなかろうか。

日本側の受け入れ派遣機関である国際厚生事業団（JICWELS）は、管理者として年１回

の現場訪問を予定しているという。

また、労働条件などの苦情等は、彼女（彼）等自らJICWELSへ連絡しなければならないということは、問題になるであろう。彼女達の後方支援をするアドバイザー（相談役）の必要を感じる。

専門分野の看護師のハードルは高い。日本語も２級程度を要求され、専門用語も習得しなければならない。その点、介護福祉士、介護士は比較的容易にクリアできるかもしれない。各人の適性で途中でののりかえも考える必要があるかもしれない。

受け入れ側（病院等）の負担金額は下記のとおりで、かなりの負担になっている。受け入れ側が毎月の給料からこれらの負担金（またはその一部）を天引きしないか監視する必要もあるだろう。

| | | |
|---|---|---|
| １．求人申し込み手数料 | 31,500 円 | （１受け入れ機関当） |
| ２．斡旋手数料 | 35,000 | （１名当、NBPPIW へ） |
| ３．滞在管理費 | 21,000 | （１名 / 年、JICWELS へ） |
| ４．日本国内での研修費 | 360,000 | （研修費、移動費、片道航空運賃等） |

インドネシア人看護師・介護福祉士の給料についてNBPPIW 側は月給 175,000 円を希望しているが、日本側は日本人と同等の就労条件を提示しているだけで、明確な金額の提示はしていない。各受け入れ機関の裁量にまかせているようである。

とにかく、専門分野への外国人受け入れがはじまった。日本では多くの製造業の現場で若年労働力が不足している。外国人労働力に多くを依存することは危険であるが、現実に彼らを必要とするときが迫っていることは間違いない。

しかし日本政府の取り組みは、各省の既得権益の壁にはばまれて遅れている。外国人による犯罪の増加もにらんで、将来に禍根を残すことのないような施策を望みたい。

研修生受け入れ事業について

私、坂本は１０年前から北スラウェシの日系人を支援してきました。日本では日系人といえばブラジルが一般的でありますが、あえて私は北スラウェシを選びました。

私とインドネシアとの関係は２０年以上におよびます。最初はジャワでチリメンジャコの加工をして日本の自社へ輸出していました。また、私の故郷大洗町は、昔、ＮＨＫでも放映されたとおり、外国人不法就労者が多く、そのほとんどは北スラウェシ出身者でした。

その関係で、マナド周辺に戦前から多くの沖縄出身者が定住していたことを知り、彼ら

の苦境を知って、のめりこんでしまいました。

自社の従業員採用については、ブラジルの日系人ならばブローカーにたのめば簡単に片付くはずでした。しかし、私はあえて北スラウェシの日系人にかかわることを決意しました。手始めに彼ら（北スラウェシの日系人）と面談し、彼等のおかれた立場を確認することにしました。

北スラウェシでは戦前・戦中にわたって、多くの日本人（ほとんどが沖縄県出身）がカツオ釣り漁業にたずさわっていました。漁業だけでなく、商業、農園を営む者もいました。その中の数十人は現地女性を妻にむかえ、家庭生活を営みました。

昭和１６年の太平洋戦争の開始によって状況は激変し、漁船乗組員のほとんどは軍属として現地徴用されました。そして終戦（敗戦）。終戦を待たずに戦死、病死した者もいますが、生き残った者はビトゥンやオーストラリアでの抑留のあと強制的に日本送還となりました。

残された妻子は当然ながら生活は困窮し、また、周囲からいじめられる状況もあったようです。

また、北スラウェシでは周知のとおりスラウェシ独立派とスカルノの中央政府との内戦もあり、混乱が続いたので、身元を証明する資料もほとんど紛失、あるいは焼失してしまった。ほとんど資料がないまま、現地在住の妻子の証言をあてにして夫（父親）を探しあるくことになりました。

しかし、戦後６０年の壁は厚く、日本（主に沖縄）での一世さがしは困難をきわめました。息子も沖縄に長期滞在させてこの作業にあてました。

その甲斐があってか、ようやく１０名ほどの一世の方がみつかりました。所在を確認して面会しても、かたくなに関係を否定する者もいましたが、多くの方が喜んでくれました。このことは思うに、沖縄は古くから海外へ飛躍している方が多く、快く海外の家族をうけいれられる下地があったからではないでしょうか。それでもやはり戦後６０年の壁は厚く、現在、日系人のルーツ捜しは頓挫している状態です。

次の策として、私は北スラウェシの日系人支援を目的としてＮＰＯを立ちあげました。また、大洗の同業者達と事業協同組合を立ち上げ、研修生受け入れを企画しました。来年早々には研修生の受け入れが始まる予定です。現在、多くの日系人から研修生の希望が出ていますが、私としては日系人だけではなく条件さえ満たしていれば一般のインドネシ人も採用の対象にすべきであると思っています。

ご存知のとおり、日系人の就労そして研修生制度は、「不法滞在」という問題をかかえています。とくに北スラウェシ出身者の不法滞在が目立っています。私たち事業者としてもこの問題に真剣に取り組まざるを得ません。

日本人会の皆様にはこのような状況をご理解いただき、適切なご指導を切に希望いたします。

# 外国人船員の日本漁船への乗組～漁船マルシップ方式について～

沖縄中央魚類株式会社
マルシップ係　　金　城　力　人

1．はじめに・・・外国人漁船員導入の経緯

日本国内での外国人単純労働者の就労を認めないとするのが政府の基本姿勢であり、日本漁船への外国人船員の乗り組み形態及びその経緯は以下の通りである。

（1）外国人労働者の受け入れに関する政府の方針・・・雇用対策基本計画制定の際の閣議決定・・・１９６７年３月１４日「現段階において、外国人労働力をとくに受け入れる必要はないと考えられる」

（2）すなわち、入管法によって「在留資格」を有する者以外の受け入れは認められていない。１９７３年及び１９７６年上記の内容が確認された。

（3）外国人漁船員の配乗形態と導入時期及びその概要

①海外基地方式・・・１９９０年

＊本邦以外の地を根拠地として、外国２００海里水域及びこれに隣接する水域で操業する漁船が対象。

＊外国人船員は本邦以外の地で乗・下船し、本邦に上陸できない。

＊雇用者・・・船主の海外事務所

＊外国人の混乗割合・・・定員の４０％を超えない。定員８人の場合、外国人３人。

②外国人漁業研修制度・・・１９９２年

＊外国人研修制度（１９９０年導入）を活用して外国人漁業研修制度を導入

＊研修期間１年、技能実習２年、最長で３年間。

＊受け入れ機関は地方公共団体（市町村）に限定され、漁協などの漁業団体は研修生を受け入れることが出来ない。沖縄県では、那覇市が受け入れ窓口となり沖縄県近海鮪漁業協同組合が研修実務を担当している。

＊研修・特定活動の査証により入国

＊雇用主・・・自治体・船主

＊外国人の混乗割合・・・定員の５０％未満。定員５人の場合、外国人２人。

③商船外航船マルシップ方式・・・１９８３年

④漁船マルシップ方式・・・１９９８年

＊外航船舶と同様の運行形態をなすもの。すなわち、主として外国２００海里水域で操業し、必要の都度外国の港に寄港する漁船が対象。

＊乗員上陸・・・許可

＊雇用主・・・裸用船先の外国会社

＊外国人の混乗割合・・・１９トン型定員８人の場合、日本人最低３人。外国人５人。

⑤全国近海かつお・まぐろ漁業協会（以下全近かつ協）所属船の導入・・・２００３年

２．海外基地方式における外国人船員の導入の経緯

（１）外国人漁船員労働問題研究会中間報告・・・１９８９年１１月２日

遠洋漁業の雇用情勢、基本的な考え方、外国人船員の受け入れの範囲と方式等について官労使による研究結果の中間報告がなされた。

（２）海外漁業船員労使協議会（海船協）の設立・・・１９９０年３月９日

①労働側・全日本海員組合、全国漁船労働組合同盟（１９９７年８月１日以降漁船同盟連絡協議会）、使用者側・大日本水産会ほか漁業種別中央漁業団体９団体（１９９８年４月１日現在１１団体）によって設立。

②海船協の任務・・・外国人船員の受け入れに当たっての諸手続、ならびに外国人船員の基本的人権の保護、国際基準に基づく労働条件の設定、労働環境の整備等の協議を行う。

（３）運輸省海上技術安全局船員部長通達・・・１９９０年３月３０日

対象漁船の条件、外国人漁船員の条件について通達される。

３．漁船マルシップ方式導入の経緯

（１）労使間合意・・・１９９６年８月８日

①労働側・全日本海員組合と使用者側・全日本水産会の間で「海外貸渡漁船（漁船マルシップ制度）の導入に関する政策基本協定書」に調印。

②労使共同で、水産庁・運輸省に漁船マルシップ方式の導入要望書を提出。また、法務省には外国人漁船員の乗員上陸の実現についての要望書を提出した。

（２）水産庁

①漁船マルシップ方式の場合は、漁業法に基づく漁業許可や承認等は失効しない。

②漁業法以外の漁業関係法令にも漁船マルシップ方式を制限するものはない。

③労使間合意がなされたことを受け、漁業経営の改善に繋がること、わが国漁業の国際競争力の保持に繋がること、漁場の確保に繋がること等の判断。

④１９９７年７月・・・水産政策検討会報告

マルシップ方式の導入が必要であるとした。

（２）運輸省

①マルシップ方式においては、当該船舶を一時的に外国船社に貸し出された時点で配乗権が外国に移っており、外国船社が外国人を乗り組ませることについて、わが国施策の対象外である。

（3）法務省

①漁船マルシップ方式を導入することについて、労使間合意がなされた。

②水産庁・運輸省においても々方式の導入はやむを得ないとの見解が示された。

③法務大臣見解・・・１９９８年３月１３日

漁船マルシップ方式に移行した漁船は、入管法第１６条に定める乗員上陸を許可することとが出来る。

（4）外国人漁船員労働問題研究会　・・１９９８年３月３０日

漁船マルシップ方式の基本的な方向等について、官公労使が参加して報告書をとりまとめた

4．漁船マルシップ方式の概要

（1）漁船マルシップ方式とは

①日本船主が、自社所有の日本籍漁船を外国の法人等に裸用船契約（船舶のみを貸し渡す契約）で貸し出す。

②その際、自社雇用の船舶職員を含む漁船員を配乗して貸渡先に派遣する。

③外国の傭船者はその配乗権にもとづいて外国人漁船員を配乗して、乗組員編成を完了する。

④当該日本船主が定期傭船契約により運行する漁船。

⑤裸傭船契約の日付と定期傭船契約の日付は、同一年月日であること。

（2）漁船マルシップの対象範囲

漁船マルシップの対象範囲は、下記のいずれにも該当する漁船であること。

①主として外国２００海里水域で操業し、必要の都度外国の港に寄港する漁船であること。外航分野と同様の運航形態をなす漁船であることが大原則である。

②海外漁業船員労使協議会の構成団体に所属する漁船であること。（漁業許可上の仕分けの詳細は省略）

③全日本海員組合等と労使関係を有する船主が所有する漁船であること。

④日本船主（船舶所有者）と全日本海員組合等との間で、日本人の定員（配乗枠）および外国人漁船員の人数等について合意がなされた漁船であること。

⑤当該日本船主（船舶所有者）と全日本海員組合等との間で、日本人及び外国人漁船員の労働条件等について合意がなされた漁船であること。

（3）留意事項

①船内における漁船員相互の融和に一層留意すること。

②外国人漁船員の人権擁護や労働環境の整備に十分注意を払うこと。

③漁船マルシップ方式の導入に伴い日本人漁船員の雇用不安を惹起させないこと。

④外国人漁船員の本邦上陸に際しては法令等の順守徹底をはかること。

⑤漁獲努力量の適正管理など漁業秩序を順守すること。

⑥外国人漁船員の本邦内での失踪事件が発生しないようその対策に万全を期すこと。

5．マルシップ漁船（近海マグロ船）の脱船問題・・・読売新聞２００７．１０．１６

（1）マルシップ漁船の隻数等

①隻数・・・全国１８０隻

②外国人船員・・・約１０００人

③外国人失跡者数・・・１１２人（０３．～０７．１０．１５までの合計）

（2）失跡者

多くは日本国内に不法残留し、、就労していると見られる。

（3）漁船マルシップ管理委員会の見方

不法残留してより高額な収入を得るため、逃げ出している。

（4）国交省の対応

①マルシップ方式による近海マグロ船の追加申請の自粛を漁業団体に指導

②船員政策課の永松健次課長の談話

脱船を手引きする者もいるようなので、防止対策には警察や入国管理局の協力も必要。

脱船が続く場合、制度廃止も検討する。

6．外国人船員の脱船逃亡問題に対する全近かつ協の対応

全近かつ協は漁船マルシップ移行審査の一時見合わせ、脱船逃亡問題について関係機関への協力要請、主要地区での指導説明会、インドネシア現地でのマニング会社の指導説明会など脱船逃亡の防止に向けた取り組みを強力にすすめた。全近かつ協がとった対策の具体例は下記の通りである。

（1）給与待遇の改善・・・２００８年1月1日より適用。

（2）脱船逃亡させた漁船に対する自主的処分の基準の策定

最悪の場合は漁船マルシップの資格喪失など

（3）水揚港における脱船逃亡防止対策の策定

ガードマンの配備（２００７．１２．２５～２００８．１．２３）など

気仙沼、塩釜、銚子の３港にガードマンを配備し警戒に当たった。

（4）邦人マンニング会社登録制度の導入

邦人マンニング会社が影響力を行使できない現地船員派遣会社の使用の禁止など

（5）入港時の防止対策強化

7．マルシップ問題に関わっての所感

刺身に代表される日本の食文化を守り近海海まぐろ延縄漁船を存続させるために、漁

船マルシップ方式は大変重要な制度である。外国人船員の脱船逃亡問題の改善がなければ、全近かつ協の所属船はこのマルシップ制度から撤退せざるを得ない危機的状況である。また前述の主要３港へのガードマン配備は、マルシップ漁船の船主に多大な負担となった。脱船逃亡者を出した船主は処分を受けるばかりでなくその対策に翻弄され、船員補充に多額の出費を強いられることになる。

脱船逃亡防止のために全近かつ協の懸命な取り組みがあり、船主の一層の努力が強く求められることも当然であろう。一方、脱船逃亡者にインドネシア人船員が多いことはインドネシア側のマンニング会社の責任も問われなければならない。脱船逃亡には様々な理由があろうとも、実際の人選に当たるのは現地マンニング会社であり、上記６－（４）の一行の特記はこのことを意味している。

国際協力の一環としてインドネシアから看護師と介護士が入国した。今後いろいろな分野で人的交流が促進されることであろう。漁船マルシップ制度についても、これからいろいろ改善されよりよい制度となるよう関係者の協力と努力が求められる。

現在わが社は邦人マンニング会社としての登録を目指して準備中である。我が社と連携しているインドネシア現地のマンニング会社には日本人スタッフがおり、日本の文化の事前指導や労働条件などについてしっかり確認するとともに、厳しい人物評価を基に人選している。また沖縄においてはインドネシア人大学生を通訳者として、インドネシア人船員と船主及び我が社担当者との間の意思の疎通に努めるとともに、船員の悩みの相談や船内生活問題の取り上げに努力している。漁業者の安定経営と沖縄の水産業の発展のために、そしてインドネシア人船員との良好な共働を通して日本とインドネシアの友好親善のために社をあげて微力を尽くしたいと考えている。

２００８年９月５日

＊参考文献

１．漁船マルシップ方式の概要と手続き
２００３年１１月　　海外漁業船員労使協議会、漁船マルシップ管理委員会
２．全国近海かつお・まぐろ漁業協会の指導説明会資料
３．読売新聞・・・２００７．１０．１６

# わが国の外国人就労の現状と在留資格制度

出入国管理法が規定する外国人の在留資格は、原則として具体的な業務内容を特定して認められている。

このうち、就労が認められているものには「人文知識・国際業務」（通訳など）、「技術」（エンジニアなど）、「興行」（歌手など）、「技能」（料理人など）、「教育」（学校の語学教師など）をはじめ、16種類がリストアップされている。これらは「高度人材」（専門・技術職）は受け入れ、「単純労働者」は入れないという国の原則に照らせば、前者に相当する職種だ。

一方、工場作業員などの単純労働者として働いている外国人には、無期限の在留資格を得ている「永住者」のほか、海外に移住した日系人の家族や子孫（日系2世、3世）などの「日本人の配偶者等」「定住者」といった資格の人が含まれる。これらの資格には活動の制限がないため、どんな職業でも選ぶことができる。日系人を主な対象とした2つの資格は1990年の法改正で新設され、実質的に無制限の外国人単純労働者の受け入れに道を開いたとの批判もある。

さらに1年間の研修後、2年間の就労が認められる「技能実習生」も工場などで働く場合が多い。これは、法務大臣が個々の外国人について判断する「特定活動」の資格で就労が認められる。ただ、研修期間中の労働に対する手当は最低賃金法の保護対象とならなかったり、賃金未払いなどの違法行為が横行するなど、途上国への技術移転という本来の趣旨からかけ離れた、安価な労働力として利用されている実態が明らかとなり、政府内で制度の見直しが議論されている。

ちなみにフィリピンやインドネシアとの間で締結した経済連携協定（ＥＰＡ）により、発効後に来日が見込まれる看護師や介護福祉士の候補者も、特定活動で就労が認められることになる。このほか、大学や高校で学ぶ留学や就学資格の外国人は、地方入国管理局から「資格外活動」の許可を得てアルバイトができる。飲食店員などのサービス業で働く例が多い。

観光や商用をはじめとした「短期滞在」（最大90日）などの資格で入国し、在留期間を超えてとどまる不法残留者も17万人余りいる。ただ、その数は、合法的な就労の間口の広がりと取り締まりの強化により、大幅な減少が続いている。

**主な在留資格と登録者数**(2006年末)　（人）

就労目的の在留資格

| | |
|---|---|
| 人文知識・国際業務 | 57,323 |
| 技術 | 35,135 |
| 興行 | 21,062 |
| 技能 | 17,869 |
| 企業内転勤 | 14,014 |
| 教育 | 9,511 |
| 教授 | 8,525 |
| 投資・経営 | 7,342 |
| 宗教 | 4,654 |
| 研究 | 2,332 |
| 芸術 | 462 |
| 報道 | 273 |
| 法律・会計業務 | 141 |
| 医療 | 138 |
| 不法残留者 | 170,839 |

就労できない在留資格

| | |
|---|---|
| 留学＊ | 131,789 |
| 家族滞在＊ | 91,344 |
| 研修 | 70,519 |
| 短期滞在 | 56,449 |
| 就学＊ | 36,721 |
| 文化活動 | 3,025 |

その他

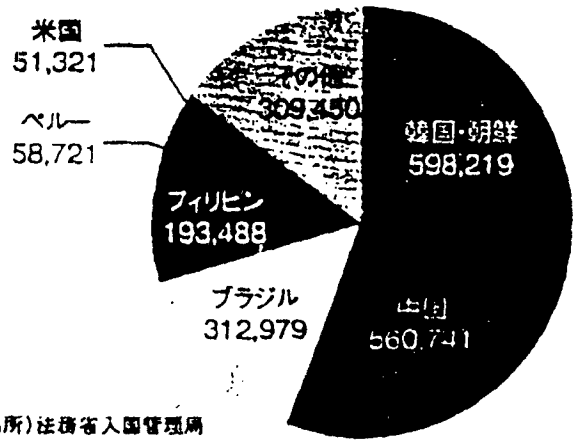
| | |
|---|---|
| 特定活動 | 97,476 |

身分に基づく在留資格

| | |
|---|---|
| 特別永住者 | 443,044 |
| 一般永住者 | 394,477 |
| 定住者 | 268,836 |
| 日本人の配偶者等 | 260,955 |
| 永住者の配偶者等 | 12,897 |

（注）＊は資格外活動の許可を得てアルバイトが可能、不法残留者は外国人登録者に含まれない
（出所）法務省入国管理局

**国籍別外国人登録者数**(2006年末)　（人）




（出所）法務省入国管理局

資料２

# 労働市場 サービス分野 開放提言

## 外国人受け入れ拡大 高度技能も実習

日経 07.9.22

諮問会議調査会

政府の経済財政諮問会議の調査会は二十一日、外国人が日本で学ぶ研修・技能実習制度の見直し案を発表した。介護などサービス分野の受け入れを促すとともに、主に製造業で現行制度よりも高い技能を学ぶための再研修を認める制度の創設を提案。賃金面などで研修生の権利を保護することも求めた。制度改革を巡って厚生労働省と経済産業省が対立し、見直しが進まない現状を改め、受け入れを拡充することを目指している。

外国人研修・技能実習制度、各省の見直し案

| | 制度の見直し | 導入国・再実習 | 特徴など |
|---|---|---|---|
| 現行の制度 | 研修1年、技能実習2年の計3年（ただし研修は労働法で保護されず） | 個別審査で認めるケースもある | 悪条件で外国人を酷使する企業が横行 |
| 経済財政諮問会議の専門調査会 | 研修の実務と技能実習とを合わせ、労働法が保護する「技能実習」に | 技能実習終了後、いったん帰国を条件に2年 | 看護・介護など労働力不足の分野に対象を広げる |
| 厚生労働省の研究会 | 研修と技能実習とを合わせ、技能実習を3年に | 企業単独型に限り2年 | 労働法の適用範囲を広げるなど外国人の保護色が強い |
| 経済産業省の研究会 | 現行の制度を維持 | 企業単独型・団体監理型とも2年 | 経営側の「外国人労働者受け入れ拡大論」に理解 |

今の制度では途上国の外国人が最長三年間、日本の企業で働きながら技能を習得できる。途上国への技術移転が目的だが、製造業などでは研修生が現場の貴重な働き手にもなっている。

諮問会議の労働市場改革専門調査会（会長・八代尚宏国際基督教大教授）が発表した改革案では、新たに介護や看護などサービス分野への研修生受け入れを打ち出した。現在、同制度の対象は六十二の職種に限られ、九割が製造業だ。急速に高齢化が進むなか、今後深刻な人手不足が予想される介護などのサービス分野で外国人研修生を積極的に活用することが必要だと判断した。

また今の制度のもとで技能検定の資格を得た外国人が、さらに上の資格を目指す場合にも受け入れる「高度技能実習制度」の創設を提案。現行制度による三年の研修後、一度帰国して母国に技術を伝えることを条件に、改めてより水準の高い二年間の研修を受けられるようにする。

一方、現行制度は前半の一年間が「研修」、二年間が「技能実習」とされる。研修の間は仮に現場で働いても労働法制の対象外で、この間は企業が研修生を不当に低い手当で働かせるような事例が続出している。このため調査会は三年間をすべて労働法制の対象とするよう要請。働いている期間は最低賃金が保証されるようにする。

同制度を巡っては厚労省が制度を悪用する企業を問題視し、研修生をすべて労働法制で保護する改革案を提案。これに対して製造業の現場では研修生が貴重な働き手となっている現状を踏まえた経産省は受け入れの拡大を重視した改革案を示し、対立している。

諮問会議の調査会は受け入れの拡大で経産省に近い提言をする一方、労働法制の適用期間を拡大することでは厚労省の意見をほぼそのまま採り入れ、「双方の良い点を採り入れた」（八代会長）。行き詰まった議論を打開し、改革を前進させることを狙っている。

ただ安倍晋三首相が辞任を決めたため、狙い通りに具体化が進むかは不透明。調査会案は諮問会議の場で議論し、決定するのが普通の流れだが、政局の混乱で諮問会議の日程が決まらない。新しい首相が民間議員の人選を見直せば、調査会長で民間議員の八代氏が交代する可能性すらある。

外国人研修生の受け入れは日本経団連も十八日に提言を公表。労働界を含めて意見は乱立気味。調査会案は折衷案を示しつつサービス分野で目新しさを示したものの、諮問会議の役割低下は議論の舞台が見えにくい現状に拍車をかけている。

# 外国人単純労働者
# 受け入れ論 加速

単純作業をする外国人労働者の受け入れ論が勢いを増してきた。推進派は「労働力人口の減少を補うため」と結論を急ぐが、政府内には慎重論も根強い。活発な受け入れ論の背景には、実質的な単純労働者である研修・技能実習生や日系人が急増している実態もある。（市川美亜子、福間大介、小室浩幸）

**キーワード** 移民　国際的に合意された定義はなく、法務省によると日本でも正式な定義はない。例えば国際移住機関は「通常の居住地以外の国に移動し、少なくとも12カ月間その国に居住する人」ととらえている。だが日本では、ある程度長期にわたって定住する外国人を指し、留学生や短期の就労目的の外国人は除く場合が多い。自民党内などの議論でも「帰国を前提としない長期の労働者や、日本人の配偶者を持つ永住者ら」を想定しているようだ。

## 自民内に移民案

今月15日、自民党本部の一室。森喜朗元首相や中川秀直元幹事長ら有力議員が名を連ねる「自民党外国人材交流推進議員連盟」（約80人）のメンバーが顔をそろえ、6月に政府に提出する提言の骨格をまとめた。

内容は、衝撃的だ。「人口減少社会の日本の危機を救うには、海外からの人材受け入れ以外にない」と断言。単純労働者を含む外国人の定住を前提に、複数省庁にまたがる外国人政策を「移民庁」に統一、今後50年間で人口の10%を移民が占める「多民族社会」を目指す――。

会長の中川氏は「人口が減少するなか、移民育成型の社会は、選択の余地がない『21世紀の日本の道』だ」と言い切る。

一方、昨年5月、法相時代に外国人受け入れ私案を打ち出した長勢甚遠衆院議員も、私案の実現に向けて動き始めた。首相直轄の自民党国家戦略本部のもとに、今年1月、自らをトップとする外国人問題プロジェクトチーム（PT）を発足させた。夏までに提言をまとめようと、毎週、関係省庁の担当者や業界団体の代表らと議論を重ねる。

私案の柱は、専門的・技術的分野以外の外国人労働者を受け入れる「短期外国人就労制度」の導入だ。毎年の受け入れ人数に上限を設け、在留期間も3年限定で再入国は認めない。長勢氏は20日の会合後、「党内には移住を求める人もいるが、私のPTでは、移住とは切り離してやっていく」と話した。

## 政府は慎重姿勢

だが、政府が現在、外国人労働者として公式に受け入れているのは、大学教授や医師、スポーツ選手ら専門的・技術的分野に限られる。それ以外の単純労働者の受け入れには一貫して慎重な姿勢を保ってきた。

中でも厚生労働省は、「国内労働者の賃金低下を招く」（幹部）などと反対派の急先鋒（きゅうせんぽう）だ。

9日の経済財政諮問会議では、舛添厚労相が「安い労働力を多く手に入れたいというなら問題だ」と主張。受け入れに伴う教育や治安などの社会的コストが大き過ぎるとし、国内の非正規労働者や女性、高齢者の雇用を優先すべきだと訴えた。厚労省は、インドネシアなどからの看護師・介護士候補の受け入れも、経済連携協定（EPA）に基づく例外措置と位置づける。

経済産業省も、外国人労働者の受け入れには前向きだが、単純労働者の流入には「競争力が弱い産業まで温存される」（幹部）と慎重だ。

だが、在留管理に責任を持つ法務省は反対だけしているわけにはいかない。ある幹部は「実態として外国人の労働力なしに日本が成り立たない中で、単純労働者流入の流れは変わらないだろう。彼らを悪用させず、しっかりした管理体制を整えることが大前提だ」と話す。

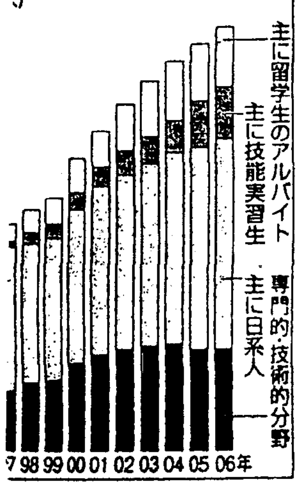
実際、最近の法務省の動きは、外国人の大量流入を見越した準備のようにもみえる。

鳩山法相の私的懇談会「出入国管理政策懇談会」は3月末、市町村が把握する住所の情報と入国管理局が管理する在留資格の情報を顔写真付きカードに集約し、法務省で一元管理するよう提言。同省は提言をもとに、入管法改正案を来年の通常国会に提出する方針だ。実現すれば不法滞在者の判別などに効果が期待できる。

9日の記者会見で鳩山法相は「究極的には移民の議論になる。移民政策をとるのか、とらないのか、数年以内に結論を出すべきでしょう」と明言した。

めっき工場で働くフィリピン人の技能実習生ら＝愛知県内、岩下毅撮影

働く外国人労働者数の推移（厚生労働省の推計）




## すでに現場の戦力に

法務省の動きや、与党内で活気づく単純労働者受け入れ論の背景には、少子化による労働力人口の減少に加え、単純労働に従事する外国人がすでに急増している実態がある。

国内で自由に就労できる日系人らは06年現在、10年前より14万人多い37万人（厚労省推計）。国際貢献の名目で受け入れている研修・技能実習生も10年前の約4倍の15万人強（06年）となり、機械産業や繊維産業では欠かせない労働力だ。しかも、その劣悪な労働環境が国会で問題になり、政府内では来年の通常国会に向けて制度の見直し論議が進んでいる。

同じような状況だった韓国は04年8月、単純労働者を受け入れる「雇用許可制度」の導入に

永住も可能な本格的な受け入れ制度だ。ただ、国内の雇用を守るため、受け入れ団体を公的機関に限定して年間の受け入れ人数に上限を設定。韓国人向けに求人を出しても求職者がいなかった場合だけ、外国人を雇える仕組みだ。

韓国の外国人政策に詳しい中央大学兼任講師の宣元錫氏によると、公的機関が仲介するので、労働者がブローカーらに払

た。ただし、この逃亡率は現在の日本の研修・技能実習生の逃亡率と大差ないという。導入から4年弱で、国内労働市場への影響もまだ評価が難しい。

一方で、制度の導入を機に外国人の人権が政治課題となり、外国人基本法の制定や、永住外国人への参政権の付与につながった。宣氏は「見て見ぬふりでは前進しない。日本も実態を直視し、正

資料4

# 外国人研修制度 米も問題視

## 「処罰の意志欠く」

### 人身売買報告書

2008.6.5 朝日

【ワシントン＝鵜飼啓】米国務省は4日発表した世界の人身売買についての年次報告書で日本の外国人研修・実習制度に触れ、不正雇用や賃金未払いが伝えられているとして「政府の法執行の意志欠如が深刻」と指摘した。

報告書は、労働基準局が外国人研修・実習制度にからみ、06年に1209件以上の労働関連の法律違反を認定したにもかかわらず、不法労働の有罪確定は過去2年間で2件しかなかったと紹介。人身売買撲滅への取り組みで評価した4分類で、日本を上から2番目のランクに入れた。

人道目的以外の援助停止など制裁の可能性がある「最低ランク」の国には、北朝鮮など14カ国。中国に関しては、北朝鮮から脱出した人たちが強制労働や性産業への従事を迫られていることを指摘し、下から2番目のランクの「第2段階要監視リスト」に入れた。

研修・実習の外国人

# 受け入れ団体 許可制導入へ

2008.6.14(土) 朝日

低賃金労働や搾取が問題視されている「外国人研修・技能実習制度」をめぐり、厚生労働省は13日、研修生の受け入れ団体に対し許可制を導入する方針を決めた。同日まとまった有識者研究会の最終報告に盛り込まれた。厚労省は法務省などと協議し、来年の通常国会へ提出が予定されている出入国管理法改正案に盛り込みたい考えだ。

現在、受け入れ団体になるには入国管理局による書類審査があるだけ。受け入れ団体の一部に不正な搾取を行うケースもみられることから、厚労省などによる許可制への変更を目指す。制度が低賃金労働者の確保に利用されているとの批判を受け、実習の実効性を高めるため、技能検定3級レベル以上の受験の義務づけも検討。合格率の高い企業には受け入れ枠拡大などの優遇措置を講じる。

2001年11月10

資料5

水経ネット携帯サービス
希望者登録受付中
詳しくは下記ホームページで
www.suikei.co.jp

8ページ
4市況／一般ニュー
5POS売れ筋ラン
6・7一般ニュース
8カラー・ワイドの

外国人乗組員脱船・逃亡

# マルシップ資格の剥奪も

## 厳しい措置導入へ

## 全近かつ協が対策

今年8月以降、マルシップ方式の近海マグロ漁船から外国人乗組員の脱船・逃亡が相次いだことを受け、全国近海かつお・まぐろ漁業協会（全近かつ協、丸山英満会長）は10月31日までに、①入港時対策②外国人乗組員の待遇改善③脱船・逃亡があった漁船に対する自主的処分の基準化ーを柱とする、外国人乗組員の脱船・逃亡防止対策をまとめた。対策には、入港停泊時の見張り（ガードマン）の配備のほか、脱船・逃亡者を出した船に対しては、マルシップ漁船の資格の剥（はく）奪を含む厳しい措置も盛り込んだ。入港時対策はすでに実施への準備に入っており、待遇改善と自主処分は来年1月1日付で基準を改定する。

全近かつ協は脱船・逃亡について、最初から脱船・逃亡を目的に乗船する確信犯のほか、船に乗りながら企てる者、給与・環境に対する不満で実行する者がいると原因と実態を分析。確信犯については、雇用現地での審査を強化することで対応し、そのほか日本で対応できる部分について今回の対策に盛り込んだ。

入港時対策としては、「（入港時の）外部との接触が脱船・逃亡につながっている場合が多く、外部との接触を極力減らすことが重要」として、対応が可能な漁港（市場）では、船の沖留め、ガードマンなど見張りの配備、外出時の日本人の同行などを実施する。

一方、外国人乗組員の不満を解消する措置として、給与待遇も改善。未経験者に対する月額最低賃金6万1000円はこれまでと変わらないが、乗船経験1年以上の者には、全日本海員組合と協議し最低賃金を月額7万円に引き上げる。

脱船・逃亡を発生させた漁船に対する対応策も厳格化する。具体的な罰則基準は今後詰めていくことになるが、「脱船・逃亡者を出した船はマルシップの資格剥奪もありうる」という厳しい措置になる見通しだ。いずれの対策もすでに国交省、水産庁には報告済みで、会員に対しても周知徹底を図っている。

全近かつ協の納富善裕専務は「今の漁業にとってマルシップ制度は必要不可欠。この制度を維持していくためにも、これ以上脱船・逃亡者を出さないにしなければならない。厳しい措置も含まれるが、所属船に対しては徹底指導していく」と話している。

19

この稿は沖縄のローカル紙「琉球新報」（平成２０年１２月９日）に掲載されたレポートです。沖縄大学は平成２０年度に創立５０周年を迎えましたが、その記念行事の一環として、韓国、スリランカ、インドネシアに学生のスタディーツアーを実施しました。インドネシア班は引率の教授１名に学生５名（大学院生１名）という構成で９月７日から１５日まで、主にトモホンのタマシロ家を拠点にして主に水産業関連の見学を行いました。

# 沖縄大学スタディーツアー報告

法経学部３年　宜野座　剛

現在、インドネシア北スラウェシ州マナド周辺に沖縄県人をルーツとする５世までの県系人が数百人定着している。１世は糸満や本部などの出身で、追い込み網やカツオ釣り漁業、カツオブシ製造業に従事し、現地に根をおろしていったという。

今回は北スラウェシ州のトモホンにあるタマシロさん宅でお世話になったのだが、私たちが一番驚かされたのが食文化である。バリ経由でマナドへ行くためデンパサール空港に到着した際、その地域をアピールしたポスターが張り出されていた。

犬、コウモリ、サル、ネズミ、蛇、魚、豚などがのっていた。現地の言葉を読めないわたしたちは当然、現地の動物を守るためのポスターのたぐいだと思っていた。しかし、マナドで最初の夕食にでた「黒い物体」に私たちは衝撃を受ける。味はおいしかったのだが、黒い物体はなんとこうもりだという。翼は魚の皮、身はチキンの味そのものであった。

他にも現地ではニシキヘビも食べた。空港に張ってあったポスターは、全部現地の食べ物であったのだ。沖縄でも昔は蛇、犬、コウモリ、ねずみは食べる機会があったらしい。昔の沖縄を体験できたという意味では貴重な体験であった。

ひとつ残念なのは、日本はダシ文化だがインドネシアは調味料文化で、基本的に味付けは辛いわけで素材本来の味を堪能できなかった点である。

ツアーの目的である水産関係施設の見学とあわせて、日本人墓地の慰霊祭に参加し、現地の食材で作ったかまぼこを配った。インドネシアの海は沖縄とほとんど変わらず、現地のグルクン（タカサゴ）で魚ハンバーグ風のカマボコを作ることができた。カマボコは現地にないものであったが、若いひとには好評であった。

文化の共通点が「食」以外のにもあり、インドネシアと沖縄は似ている点が多いことを実感した。

インドネシアと日本・沖縄は昔から深いつながりが存在するのだ。これほどまでにつながりのあるインドネシアのことを沖縄側はもっと知らなければならない、伝えていかなくてはならないと感じた１０日間であった。

# ビトゥンに眠る沖縄漁業者へ（慰霊の辞）

鵬程万里の地、インドネシア国ビトゥン市のカナナアン峠に眠る沖縄ウミンチュの御霊に、古里の沖縄から沖縄の漁業者を代表して慰霊の辞をおくります。

皆様のふるさと沖縄では今、各地で豊年祭や若者たちによる勇壮なエイサーの踊りが練り歩き、村々に三線の音が響いております。皆様がふるさとを離れ遠くビトゥンに渡られてから７０年余の歳月を経たかと思いますが、遊び戯れた懐かしいあの山や川、海辺の姿は昔とそれほど変わることなく、みなさんの瞼に刻み込まれたままに残っているのが多いかと思います。

しかしながら、今の沖縄の漁業のすがたを見ると、皆さんが潜って獲っていた魚や貝など、あの豊かな資源は年々減り、昔とは大きく変わりつつあります。また、昔を語るウミンチュも年々少なくなり一抹の寂しさを感じます。

ところで、歴史はくり返すといわれておりますが、皆さんが漁業に夢を抱き、沖縄ウミンチュここにありと活躍し、セレベス島はじめ南の島々で築いてきた漁業の歴史が、今、振り返られつつあります。

今回、沖縄大学の学生諸君が、先人の残した偉業を学び、これからの沖縄の漁業になんらかの道を開きたいとして北スラウェシを訪れております。今回は初回でもあり、直ちになんらかの方途を見つけるのは難しいかと思いますが、これを機会に、漁業に限ることなくいろいろな交流を通じて沖縄とインドネシアの間に新しい絆が築かれ、相互発展の足がかりになるのではないかと、大きな期待を寄せているものであります。

南海に羽ばたいた皆様の心意気が今の若者達にも受け継がれて、沖縄の漁業にも新しい息吹を与えられるように、ビトゥンに眠る皆様の御加護をお願いするしだいです。

合掌

平成２０年９月１１日

沖縄県漁業振興基金理事長　糸満盛健

# 慰霊祭の挨拶

この遠きインドネシアの地において、若い学生と共に皆さんの慰霊祭に参加できる幸せをかんじています。

日本とインドネシアは１９５８年に外交が開始されてから今年で５０周年、「日本インドネシア友好年」という記念すべき年をむかえました。

わが沖縄大学も今年で創立５０周年をむかえましたが、インドネシアとの不思議なご縁を感じます。

ところがここメナドと沖縄との関係はもっと古くからあり、糸満の玉城徳（たましろとく）率いる追い込み網グループか約９２年前に当地で操業したことが記録にのこされています。

現にこの地において祖先を日本人とする多数の方々が活躍しています。この地に永眠された皆様にとっても、このように現在活躍している方々をみることは、誇らしいことだと思います。

日本の若い学生が、この地で活躍されたみなさんと対面することは、単に慰霊の意味だけではなく、日本とインドネシアの歴史を学ぶことでもあり、今後の両国の友好につながることでもあります。歴史は大きな財産ですが、それを今後に活かせるかどうかで評価もかわります。皆さんの業績を後世にどのように伝えるか。この地に眠る皆さんの意味をもっと真剣に考えたいと思います。

どうぞ安らかににお休みください。

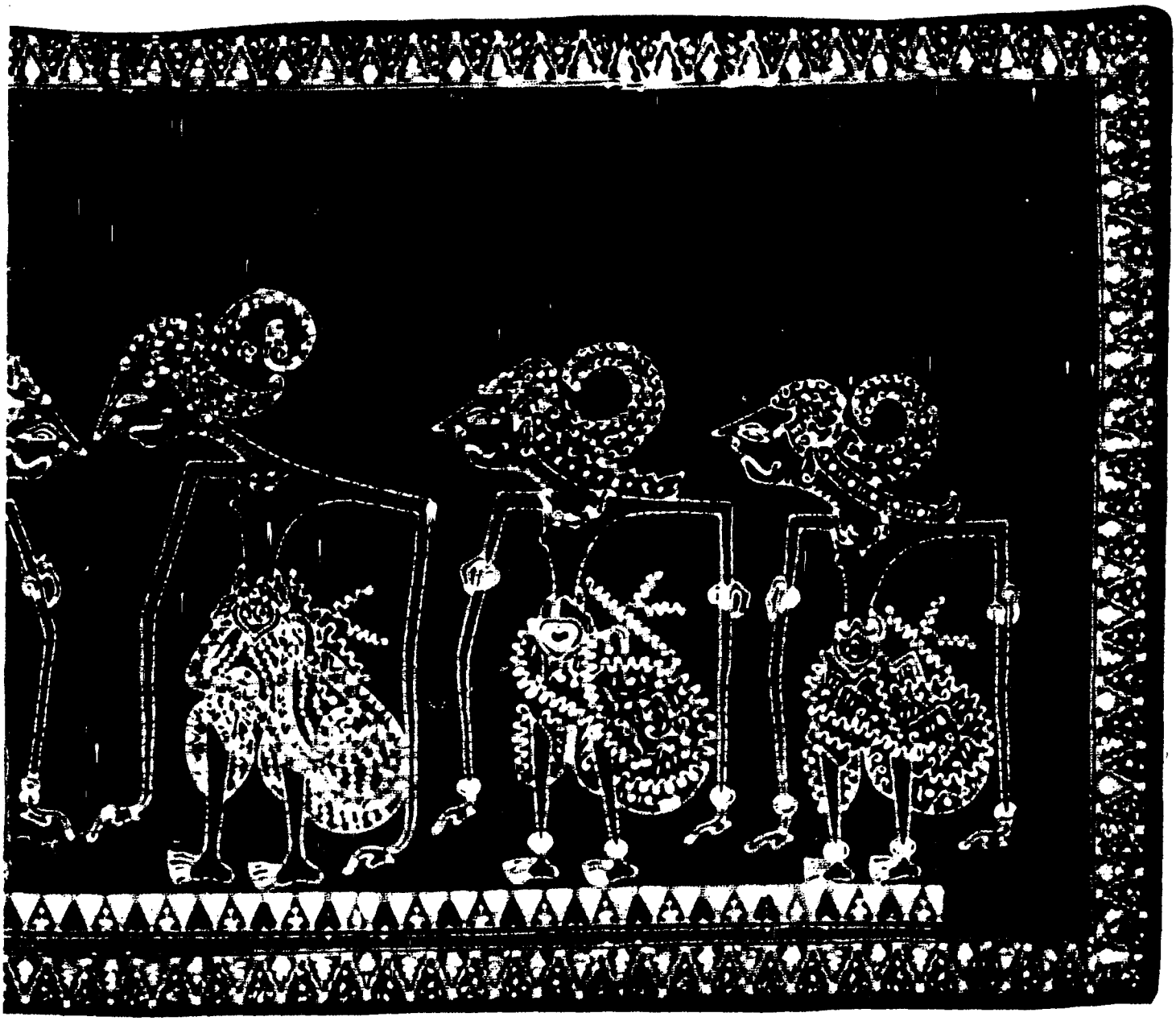
平成２０年９月１１日

沖縄大学法経学部教授　上田不二夫

Memperingati penganugerahan Bintang Jasa NARARYA
kepada Bapak Tomokazu Kaneko

# インドネシアよ 永遠なれ

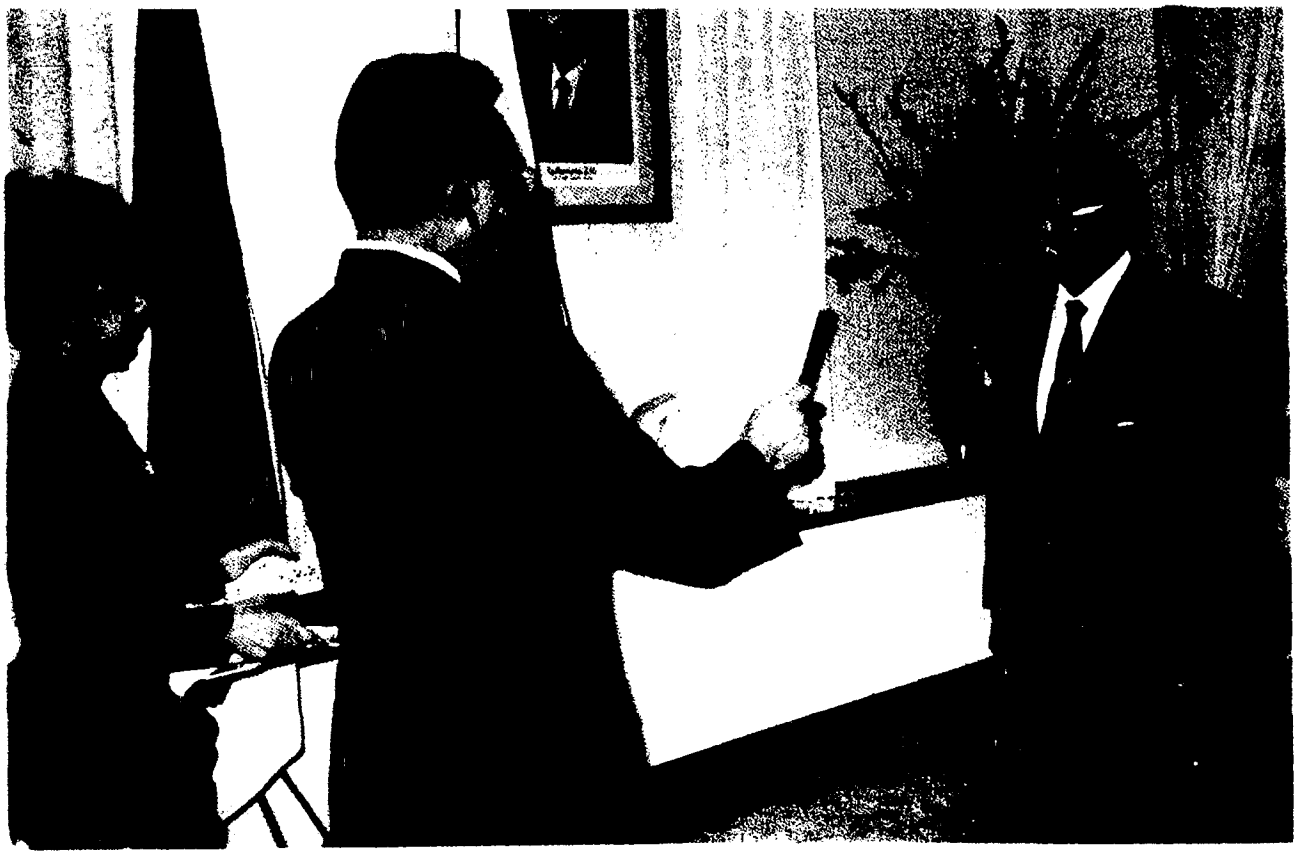
## Negara Indonesia berlangsung terus ke arah mamur



1989年 4 月 7 日

April 7, tahun 1989

# 金子智一氏の受章を祝う会



ヨギ・スパルディ駐日インドネシア共和国大使閣下より授賞さる。

（1988年9月14日　東京・インドネシア大使館にて）

番号　4769 / UI / 1988

# 勲　　記

インドネシア共和国大統領は

氏　名　金　子　智　一

役　職　財団法人日本インドネシア協会理事

に対し、功労勲章ナラリヤ Nararya を授与する。

本叙勲は、1963年第5号法律に基きインドネシア共和国政府との友好関係緊密化に際し、インドネシア国家及び民族に対し、多大なる貢献をされたことを評価してなされたものである。

（KEPPRES. R. 1. NO.050 / TK / TAHUN 1988）

ジャカルタ　1988.8.17

インドネシア共和国大統領

署　名

スハルト

## 叙勲を祝して

福田赳夫

わが同志金子さんが、このたび栄誉あるナラリヤ勲章を受章されたことは、わがことのように嬉しく、インドネシア共和国を代表するスハルト大統領閣下に、心から敬意を表するものである。

金子さんが、インドネシアの独立運動に挺身協力されたということは、金子さんの知人達はよく話してくれるが本人自身はあまり語ろうとしない。それが今回の受章で、インドネシア側がいかに高く評価していたかが実証されたもので、まことに喜ばしい。

その金子さんが、前ぶれもなくインドネシア人をよく連れてくる。それが実に優秀な人達で、インドネシアばかりでなく、アジアを、世界を、どうしようかという人達である。それが何十年とつづいている。この人脈はまことに貴重なものである。

金子さんは、まさしく日イのかげの架け橋として、今まで以上に、今後ますますご活躍あらんことを、祈念するものである。

（元内閣総理大臣）

## ご受章を祝って

末次一郎

わが敬愛する金子智一先生が、このたびインドネシアの最高勲章を受章された。仲間の一人として、こんなに嬉しいことはない。この栄誉に対して、心からお祝いを申し上げたい。

戦後、ユース・ホステル運動に熱心にとりくみ、また、近年は日本歩け歩け協会の会長として「歩け運動」の普及、振興に大きな役割を果してこられたことは良く知られているが、金子先生のインドネシアに対する貢献は、それよりもはるかに長く、深い。

戦時中、インドネシア独立を目ざす青年層の指導にあたられて以来、戦後、そして今日に至るまで、いっときも絶えることなく一貫して、インドネシアのために盡力してこられたのである。

金子先生は心身共にまだお若い。世界も、アジアも大きな曲り角に立った今日、インドネシアのために、日・イ関係のために、愈々のご精進とご活躍を祈念してやまやい。

（㈳青少年育成国民会議副会長）

### 金子智一氏の受章を祝う会　発起人会

| | | |
|---|---|---|
| 代表 | 福田赳夫 | 元内閣総理大臣 |
| 委員 | 稲嶺一郎 | 日本インドネシア友好団体協議会会長 |
| | 伊藤牧夫 | 朝日カルチャーセンター理事長 |
| | 井深大 | (社)青少年育成国民会議会長 |
| | 櫻内義雄 | (財)日本ユース・ホステル協会会長 |
| | 芝崎亨 | 埼玉県東松山市市長 |
| | 末次一郎 | (財)育青協会理事長 |
| | 高橋武平 | (社)日本歩け歩け協会副会長 |
| | 玉井顕治 | 著術業 |
| | 中谷武世 | 日本アラブ協会会長 |
| | 永山武臣 | (財)東京都ユース・ホステル協会会長 |
| | 水島廣雄 | そごう(株)社長 |
| | 宮崎輝 | 旭化成工業(株)会長 |
| | 山口敏夫 | 衆議院議員 |
| | 渡辺美智雄 | (財)日本インドネシア協会会長 |
| 世話団体 | 日本インドネシア友好団体協議会 | |
| | (財)日本ユース・ホステル協会 | |
| | (社)日本歩け歩け協会 | |
| | (社)青少年育成国民会議 | |

# 叙勲に感動して

金子智一
TOMOKAZU KANEKO

栄誉あるナラリヤ勲章を、スハルト大統領閣下に代り、ヨギ・スバルディ駐日大使閣下から、首にかけてもらった時、思わず感動の涙があふれた。

顧りみれば、47年前、陸軍報道班員として徴用をうけ、南方に出発。昭和17年3月1日未明、ジャワ島西部、バンタム湾で日蘭海軍の交戦となり、乗船さくら丸は魚雷をうけて沈没、危うく上陸。

その日から約5年、ジャカルタとバンドゥンで宣伝報道の任務についたが、日本は戦争に敗れ、聯合軍のポツダム宣言を受諾した昭和20年8月15日の2日後の17日、インドネシア民族の名において、スカルノとハッタが連名で独立を宣言し、オランダとの激烈な独立斗争時代に入った。インドネシアの若い仲間の志士達は蹶起した。文字通り起居を共にした独立の意欲に燃える青年達。街を焦土とし「ハローハロー・バンドゥン……」と歌いながら独立へ戦いつづけた青年達。

その青年達とあまりにも近すぎたとして聯合軍によりジャカルタのグルドック刑務所に昭和21年1月収容され、約1年後出所。奇しくも22年2月2日、宇品に上陸復員。原子爆弾で廃墟となった広島の惨状を見ながら、よくも生きて帰れたもの、と痛感。

その後、賠償問題の解決や、賠償留学生の世話、9.30事件後のスハルト新政権への協力、ボロブドール修復事業への募金活動などで、微力を盡した。

今もふりかえる。アブドルファミッド、イシャアンシアリー、タスマット・タハールやアリムトポなどの同志達や、市来龍男、中谷義男、吉住留五郎、柳川宗成、蓮田辰男など、独立戦争で戦死したり、イ国義勇軍を育てるなど、日イの架け橋となって、今は亡い仲間たち。あげはじめるときりがない。

「インドネシアの栄えよ、永遠なれ」と祈りながら「あなた達に代って受章しました」と、雲の彼方に合掌する。

私にとって、インドネシアは、すでに第二の祖国である。オランダから完全に独立し、39年前の1950年9月29日国連に加盟した。日本の5倍の広さをもち、人口は1億7千万をこえ、地下資源はもとより、凡ゆる資源に恵まれた、明日の偉大な国家として、アセアンでいよいよ重きをなすであろう。日イの関係は、より緊密にしなければならない。それには、政治や経済関係の強化とともに、より文化的に、より人間的に「心と心」を結び、信頼を深めることが絶対に必要である。その一端に余生を盡したい。

曽って350年有余の支配者で、独立斗争の相手でもあったオランダは、現在はインドネシアを最も良く理解する協力国家に変り、IGGI（インドネシア債権国会議）の会場貸与国でもある。そのオランダ国ナイメーヘン市内に、社団法人日本歩け歩け協会が「友好の碑」を、平成元年7月に建立する。

1975年以来、歩けオリンピックと愛称されるナイメーヘンの四日間行進国際大会に連続参加し、大歓迎をうけ、友好の実をあげ、わが東松山市を中心の日本スリーデーマーチは、その歩けオリンピックに学んで発足したものである。

35年前の1954年、独仏にはさまれたザールランドでの国際ユース・ホステル連盟総会で、加盟を申し込んだわが日本ユース・ホステル協会を最も支持応援してくれたのは、連盟会長でオランダ人のレオ・メーリンク氏で、恩讐を越えた声援であった。

世界は動いている。ものごとは移り変る。それにしても、敵対国としたオランダと今は友好の輪をひろげ、歩けオリンピックには、来る7月、第12回目の参加をし、インドネシアの独立記念日8月17日には、ナラリヤ勲章を佩用し、第16回目の参加を予定している。何という人生の奇縁であり、不思議さであろう。そして心の奥底から祈りつづける——世界は平和であって欲しい、と。

世界日報新聞連載
1988.11.28～12.13

# インドネシア 独立運動秘話

評論家 村上 薫

インドネシア独立運動秘話
評論家 村上 薫

●1○

## 多くの日本人が挺身

## 日本への信頼勝ち取る

今年九月、二人の日本人がインドネシア政府からナラリア勲章を受章した。一人は稲嶺一郎氏（前参議院議員、現在、琉球石油会長、ASEAN協会会長）、もう一人は金子智一氏（財）日本・インドネシア協会常務理事、日本・インドネシア友好団体協議会専務理事、日本歩け歩け協会会長）である。

ナラリア勲章はインドネシアの独立と復興、発展のため尽力した人に与えられる最高の栄誉で、これまでこの勲章をもらった日本人は前田精海軍少将（ジャカルタ海軍武官府長官、死去）、高杉晋一（海外経済協力基金総裁、故人）、清水斉（陸軍報道班員）、小笠公昭（日本・インドネシア協会会長、元参議院議員、故人）氏ら四人だけである。

日本が降伏した翌日の一九四五年八月十六日、前田少将の官邸内でスカルノ、ハッタ等独立の闘士たちが独立宣言の起草に当たっていた。そして翌十七日午前十時、スカルノは全インドネシア民族待望の独立宣言を発表した。

稲嶺一郎氏（左）と金子智一氏ニジャカルタ大統領官邸で

だがその陰で、稲嶺、金子氏らは、インドネシア独立を支援したとして、翌年一月（金子氏）と三月（稲嶺氏）が、それぞれ英軍に逮捕され、ジャカルタ市内の刑務所に約一年間も投獄されてしまったのである。

侵略戦争としてとかく悪評高き太平洋戦争ではあるが、その中にあって東南アジア、とりわけインドネシアが戦時中から戦後、そして今日に至るまで、一貫して親日的な態度をとり続けているのは、両氏に示されるように多くの日本人が、文字どおり身体を張ってインドネシア独立に協力してきたからである。

このほか日本籍を離れ、独立戦争に参加した日本兵はスマトラ地区が五百人を超え、ジャバ島で約三百人、このうち連合軍との戦いで戦死した数は四百人にのぼる。驚くべき戦死率だが、このことは日本兵がいかに先頭を切って勇敢に戦ったかを示している。

本稿では金子氏らの証言を基に、当時、多くの名もなき日本人が、いかにインドネシアの独立のため生命を投げ出して闘ったか、その当時の模様を掘り起こしてみることとする。

現在、米国ではP・ケネディ教授の「大国の興亡」をめぐって激しい論争が展開されている。一方、敗戦の焼け跡の中から立ち上がった日本は、今や世界最大の債権国となり、その一挙手一投足は世界の注目の的になっている。ところが、経済大国になった途端、日本人の心に〝傲（おご）り〟が生じ、アメリカやアジア周辺諸国に対日不信感が高まっている。海外で日本人がチヤホヤされるのは、ずばりいってカネだけが目当てであり、心の中では決して尊敬されていない。

国家が国際的に孤立化を免れる二つの尺度が、友好国をどれだけ持っているかであるが、その伝でいけば日本は、近隣諸国から好かれているとはいい難い。その最大の理由が、戦前の日本の行動であり、その行動に対する日本の認識の欠如にある。

「日本はアジアで真の友人を一人も持っていない。日本人はアジアを一段低く見て威張り過ぎているからだ」と、西独のシュミット前首相も辛らつな批判を行っている。日本が〝経済大国〟から〝尊敬される国〟へ変身するためにはどうあらねばならぬか―それを解くカギを、インドネシア独立運動に挺（てい）身した日本人たちが提供してくれるはずである。

金子コレクションより

# インドネシア独立運動秘話

評論家 村上 薫

●2

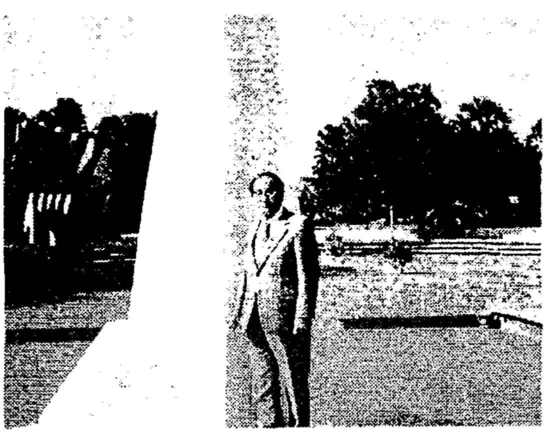
## ジャワ上陸作戦に成功

百余隻の大輸送船団に分乗した今村均大将率いる第十六軍がジャワ上陸作戦を開始したのは昭和十七年三月一日、主力は西部ジャワのバンタム湾に上陸したが、バタビヤ沖海戦と呼ばれる夜戦が行われ、今村軍司令官は重油の海を泳いで、七日にジャカルタに突入、九日オランダ軍が正式に降伏した。

この時バンタム湾の泊地で魚雷攻撃を受け、沈没した貨物船に乗っていたのが、陸軍報道班員として雑誌記者から徴用された金子氏で、仲間には評論家の大宅壮一、浅野晃、作家の富沢有為男、詩人の[illegible]、漫画家の横山隆一、小野佐世男、美術デザイナーの河野鷹思、民族運動家の清水斉、音楽家の飯田信夫、市[illegible]記者な[illegible]が顔を合わせていた。宣伝班長の町田敬二中佐は武漢作戦で数々の[illegible]をもらった優秀な軍人だったが、映画も作り文章も書く[illegible]将校だった。さいわい魚雷[illegible]助かり、ジャワの土を踏んだ。

上陸した日本軍は熱狂的な歓迎を受けた。住民の協力は予想をはるかに上回るもので、三百三十年間にわたるオランダの支配を、同じアジアの日本軍が断ち切ってくれた、日本軍は一神の軍隊[illegible]歓迎されたのだ。今村軍司令官[illegible]軍政布告第一号は、こうし[illegible]ので「大日本軍は同族同祖たる東印度民衆の福祉増進を図るとともに、大東亜共同防衛の原則に準拠し、現地住民との共存共栄を確保せんことを期す……」（第一条）とうたっている。

軍政の三大重点は、民生の安定と、食糧、[illegible]労務者を日本軍に[illegible]置かれていた。民生安定のため[illegible]



インドネシア独立宣言（1945年８月17日）の地の記念碑と金子智一氏

## 住民から熱狂的な歓迎

運動が発案され、当時、民族運動指導者として民衆に人気が高かったスカルノ氏が中央本部長に起用された。

しかし独立歌を歌うこと、紅白の独立旗を掲げることは、東京の統帥部の方針の変更で、途中でやめざるを得なかった。フィリピンとビルマには独立を与えるが、インドネシアは南方軍の兵站基地として活用し、日本の直轄領にするというのである。

この軍の方針に町田宣伝班長はじめ市来龍男氏（戦死）などは悲憤、慷（こう）慨し、[illegible]インドネシアの心ある人々と交わるようになった。スカルノ氏との連絡係だった清水斉氏は「三Ａ運動」（アジアの指導者・日本、[illegible]アジアの光・日本、アジアの母・日本）[illegible]少将と、そのスタッフの佐藤信英、吉住留五郎（戦死）、西嶋重忠、小林良正氏などは「独立塾」を設置し、陸軍と違った立場から独立運動を支援した。これらの人々は学生時代のマルクス主義者が多かった。

今村軍司令官がラバウルに転任し、新たに着任した原田熊吉司令官も独立運動に深い理解を示し、インドネシア人指導者の建白を取り上げ、昭和十八年十月、郷土防衛義勇軍の設置を認めた。一大団五百人で終戦時には六十七大団、三万八千人に達し、駐留日本軍の三倍の兵力があった。ＰＥＴＡ（ペタ）と呼ばれた義勇軍は独立戦争の主戦力で、現スハルト大統領、ウマル副大統領などもペタ出身者であり、これを育てた陸軍中野学校出身の柳川宗成大尉は建軍の父と呼ばれている。

日本軍がインドネシアに贈った最高のプレゼントは、ペタのほか農業その他各種学校を造って青年約十万人を教育したこと、インドネシア語を[illegible]普及に力を入れたことである。このことが後に、インドネシア民族が独立の意思統一を行ううえで、どれだけ[illegible]計り知れない。

# インドネシア独立運動秘話

評論家　村上　薫

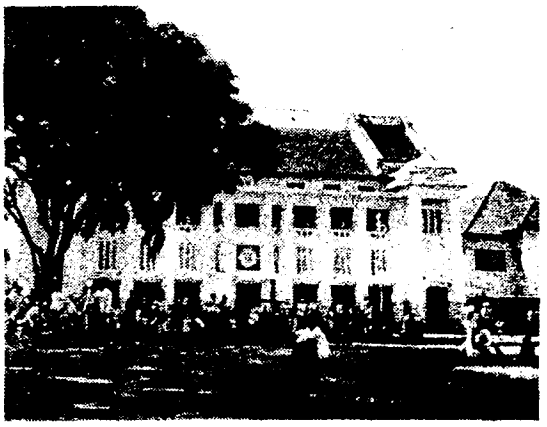
●30

## 独立準備調査会が発足

戦局の悪化に伴い東条声明で、インドネシアが政治参与を認められたのは、敗戦の前年、昭和十九年六月のことである。サイパン島が陥落し、東条に代わった小磯首相が初めて「近い将来、蘭領東印度に独立を認める」と七月の第八十五帝国議会で声明した。文字どおり待ちに待った声明であった。その結果、ジャカルタに中央参議院が設置され、州長官など枢要ポストにインドネシア人が登用され、独立準備調査会が発足した。遅まきながらインドネシアは、ここにようやく独立に向け歩みはじめた。

が、その間、戦局はさらに厳しくなり、連合軍はフィリピンから沖縄に迫ってきた。ビルマのインパール作戦が失敗したのもそのころだ。当時、金子陸軍報道班員はジャカルタからバンドンに転勤していた。バンドンは西部ジャワの七百メートの高原にある爽（そう）涼地。工科大学もあり、何か問題が起こるといつもここが震源地になる思想運動の中心地だった。赴任したのは昭和十八年からだが、当時、マスコミはすべて検閲制だったので、地元の新聞、放送、演劇関係の若手の記者たちと付き合っているうちに、いつとはなしに彼らも心を開き、独立の願望を訴えるようになっていた。

それに対し金子氏は、「日本も明治維新から今日の近代化を達成するまでに、日清、日露の両戦役を戦うなど大変な苦労を積み重ねてきた。しかし国民は一致団結して、耐え抜いてきた。日本軍がここへ来ているのは、同じアジア人である諸君たちをオランダの鎖から解放するためであり、私たちは皆、この戦争を聖戦と信じて戦っている。しかし、独立というものは、他人から与えられるものではない」――そんな話をしているうちに、いつのまにやら周辺に集まってくる若者が十人、二十人と次第に増えはじめた。



バンドン市の中央にある軍宣伝班支部

## 金子氏の下に若者集う

元々、金子氏は山形県の荘内出身だが、この荘内という所は昭和の思想家、大川周明、天才的軍人だった石原莞爾中将のほか、幕末には清川八郎を輩出している土地柄である。「たまたま旧制中学二年生の昭和四年冬、アンクル・トムズ・ケビンという米国の文豪が描いた南北戦争のころの小説を読んだが、その中に黒人が牛馬と同じく競市（せりいち）で売られていくくだりを見て、こんなことが許されていいのか、と夜通し泣きながら読みふけった。これを契機に歴史に興味を持つようになったが、そこで発見したのはアジアにおいて英国が阿片戦争を仕掛けて香港を奪取、さらにインドを侵略したことです。これは許せないという思いがつのり、中学を卒業するころ、なんとしてでも東印度諸国の独立に手を貸したいという思いが胸の中でわいていた。

それから京都で学び、作家の倉田百三先生から教えを受けたが、倉田先生が『怒涛』という名の雑誌に『民族の盛衰史か文化の向上史か』という論文を発表された――いま世界は動きつつある。多分、南方で作戦が開始されることになるかもしれない。そのさい単にイギリスに代わって日本が、同じように支配すれば、民族がただ栄えたり衰えたりするだけだ。それではいけない。あくまで文化の向上史で、東南アジア諸民族に独立を与え、解放するというものでなくてはならない、という内容だった。当時の軍国主義的風潮の中にあって、これは痛烈な警世の論文である。

こうした思いを抱いた金子氏が、インドネシアの青年たちから信頼され、やがて独立運動の同志として突入していったのは当然すぎる成り行きであった。

# インドネシア独立運動秘話

評論家　村上　薫

●4

## 「民心把握こそ大切」

馬渕　逸雄少将

## 馬渕少将がバンドン赴任

民族独立をめざす金子氏と同志のインドネシア青年たちにとって、この上もない強力な援軍が現れたのは、終戦前の年の昭和十九年十月のことだった。西部ジャワ旅団長として馬渕逸雄少将がバンドンに赴任してきたのである。

「当時のことですから赴任は秘密で、まさか馬渕さんとは夢にも思わなかった。新しい旅団長が赴任してこられるというのでバンドン空港まで迎えにいった。飛行機から降り立った旅団長をひょっと見ると馬渕さんだった。思わず『閣下！』と叫ぶと、『君ここにいたのか』、『また後で』『きっと来いよ』―本当に劇的な出会いでした。

馬渕さんは、有名な元大本営報道部長ですが、中佐のころ東京でじっ懇におつき合い頂いていた。当時、私は陸軍画報・編集長で、毎月、報道部から企画を頼まれ次々と特集をこなしていた。そのころ、尾崎士郎先生の紹介で馬渕さんにお目にかかり、個人的にも兄貴のようにつき合っていた」（金子氏）。

新旅団長として赴任してきた馬渕少将は普通の将軍とは違っていた。それは、司令部で軍僚を前に行った新任あいさつにも端的に表れている。

「民心把握こそ大切。諸君は軍事能力向上のためいろいろ尽くしてくれている。もちろんそれも重要である。しかし、それだけではいけない。占領地であるこのバンドンでは、民心把握こそ何よりも大切である。この点について今後十分配慮してもらいたい」

馬渕旅団長は将校だけでなく下士官、兵、さらにインドネシアの青年たち三、四十人との人、中国人とも積極的に話し合いの場を持とうと試みた。赴任後間もなく副官を通じ呼び出された金子氏に、馬渕少将はこう切り出した。

「これから民心把握のためいろいろ勉強しなくてはならない。ついては当地で私が会っておくべき人がいるだろう。そういった人々を、君、紹介してくれ給え」

「私はこの言葉を聞いて感激した。普通の軍人はそんなこと言いませんよ。そこで○日、拙宅でお待ちします。ついてはその時、軍服でなく平服でいらしてください。私の子供たちを紹介します、と答えました」（金子氏）。

当日、馬渕旅団長は金子氏宅からすぐ前のジャワ作戦記念館に出かけ、二十代の青年たち三、四十人との人、中国人とすき焼きパーティーに出席した。金子氏が「皆かわいい子供たちです」と紹介すると、馬渕将軍は非常に喜んだ。だが、それ以上に喜んだのはインドネシアの青年たちだった。まさかバンドン地区の最高の日本軍司令官から、やさしく声をかけられるなどだれ一人考えてもいなかったからである。それがインドネシア独立運動の青年たちと馬渕将軍の最初の出会いだった。

そのうち戦局はますます苛（か）烈になってきた。金子氏の属するバンドン報道部は、たまたま世界中の放送を皆、聞いていた。これはジャワではここだけだった。ラバウルの戦況も時々刻々入っており、わりあい正確に戦況判断できる立場だった。

「これは容易ならざる事態になってきた。いよいよおれもこの青年たちと一緒に、このバンドン地区で死ななければならないのか――昭和二十年に入った途端、太平洋戦争の戦局はまさにそういう切迫した状況になってきた」（金子氏）。

# インドネシア独立運動秘話

評論家　村上　薫

●5

## 青年隊大会成功で拍車

戦局も押し詰まった昭和二十年三月。バンドン地区の青年たちの二人のリーダーが金子氏を訪れ、「全国から青年同志を集め、独立運動決起の大会を開きたい。ついてはその会場を貸してもらいたい」と申し込んできた。

当時、日本軍はインドネシア国内の集会結社、政治活動は一切禁止しており、無断で強行すれば厳罰が待っていた。彼らに対し金子氏は「わかった。ただしこれは絶対秘密だよ」と承諾、自分が管理責任者となっている作戦記念館を会場として貸すことに同意した。

この結果、同年五月、全国から総勢約百二十人の青年がバンドンに集合。独立について熱烈に討議した。ジャワ軍政期間中、このような政治集会が開かれたのは後にも先にもこの時一回きりだったが、それだけにその反響は大きかった。通称「アンカタン・ムダ（青年隊）大会」と呼ばれているこの大会は、独立運動の指導者としてスカルノ、ハッタ両氏を正式に確認するとともに、出席した青年たちはバンドンから戻ると各地区で活発な報告会を開いた。その結果、全島的に独立の機運が急テンポで盛まっていった。

しかし軍政当局の許可を得ず青年たちに会場を提供した金子氏は、憲兵隊に呼び出され、憲兵隊長直々に厳しい取り調べを受ける。だが、金子氏は全くひるまない。むしろ逆に、憲兵隊長が自宅にオランダ人女性を二号に囲っていた問題を材料に反撃に出たため、憲兵隊長は急におとなしくなり、金子氏は帰宅を許された。

アンカタン・ムダの成功に刺激され、「仮にインドネシアが政治的に独立をかちとっても、経済的独立がなければ真の独立はあり得ない。そこで次は『いかにして経済的自立をかちとるか』をテーマに全インドネシア経済人大会を、バンドンの県長邸の広間で開催したいので協力してほしい」という要請があった。もちろん金子氏は快諾した。

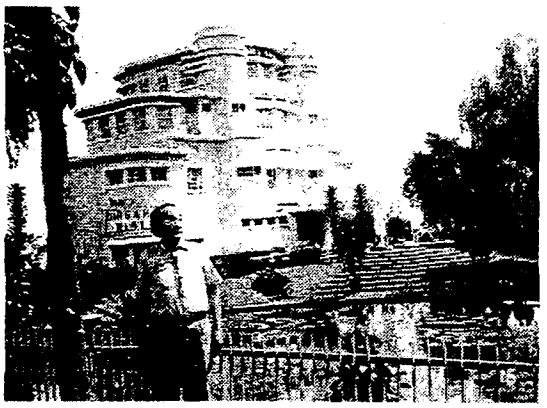
終戦直前の七月、経済の権威、ハッタ博士が提案した協同組合論は、参加した約百五十人の経済人に深い感銘を与え、スカルノ氏も深くうなずいていた。もっともこの時は軍政部に届けられ、ジャカルタの軍政監部から日本人オブザーバー一人が派遣されてきた。

そして七月十七日、東京の最高戦争指導会議はついに東印度全域に独立を認め、ジャワに独立準備委員会を設けることを決定した。これを受けた寺内南方軍総司令官は八月十一日、スカルノ、ハッタ氏らをサイゴンに招き、この方針を直接伝えた。

彼らは八月十四日午後ジャカルタに帰国したが、翌十五日、日本は連合の敗戦を迎えた。その結果、スカルノ、ハッタ両氏は予定を早め、十七日独立宣言を発表した。場所はジャカルタ市内のスカルノ邸だった。

宣言文が読み上げられ、紅白のメラ・プテイの民族旗がするすると掲揚され、民族歌「インドネシア・ラヤ」が歌い出されると、列席したインドネシアの人々は皆、感涙にむせんだ。三百五十年の植民地支配から脱する独立宣言――それはインドネシア民族にとって、まさに世紀の感動であったのだ。

もちろんそれだけで本当に独立が保障されたわけではない。真の独立を達成するためには上陸してくる連合軍（英、蘭軍）を迎え撃ち、実力で独立をかちとらなければならない。そのため絶対に再びオランダの支配を許すなと全民族が独立闘争に立ち上がったが、その勢いはすさまじいものがあった。



アンカタン・ムダ大会の会場となった元イソラ・ホテル。当時のジャワ作戦記念館と館長であった金子智一氏

## 昭和20年8月に独立宣言

# インドネシア独立運動秘話

評論家　村上　薫

●6

## 武器譲渡拒む日本側

インドネシア国軍の父と今も言われる柳川宗成大尉（右）とナスチヨン陸軍大将（左）

## 連合軍の命令に従う

当時、独立戦争のため一斉蜂（ほう）起したインドネシア側は、バンドン市周辺を包囲し、封鎖作戦をとりつつあった。通行が自由なのは、市と飛行場を結ぶ入り口ただ一カ所だけ。その他の出入り口は、義勇軍が防衛線を築き、厳重な監視の目を光らせていた。

緊迫した中で〝十月十日事件〟が発生した。インドネシア側は独立闘争のために武器が要る。日本側にくれと頼んでも、連合軍からインドネシアに武器譲渡を禁じられている日本側は、要求に応じるわけにいかない。そこでやむを得ず日本軍の兵器廠（しょう）や弾薬庫を襲い、武器、弾薬を手に入れようとしたのである。

守備している日本兵も、昨日までの友軍であるインドネシア義勇軍と戦う気はない。やむなく空に向けて発砲する。一方、インドネシア側も目的は武器獲得にあり、日本軍と撃ち合う気はない。しかし、それでもわが方に若干の犠牲が出た。

一番困ったことは、インドネシア側が、連合軍にとって首都ジャカルタとの重要な通路であるバンドン飛行場を占領してしまったことだった。飛行場を占領したのはスゴノという特別警察隊長だった。やむを得ず日本軍は連合軍の命令で軍事行動を起こした。敗軍とはいえ日本軍は本格的な軍隊である。戦車を先頭にした日本兵の姿を見て、インドネシア側は飛行場を放棄した。

「真にインドネシアを愛するインドネシア人一人の人心を獲得することは、百人ぐらいの人たちがまるくなって、一人のインドネシア人を囲んでいた。よく見ると馬渕将軍のほか副官の野田大尉、通訳の松村さん（千田商会）、それに親友の柳川宗成大尉と通訳の中じゅんじゅんとその男に説いていた。

「たしかに武器がほしいだろう。私も君の立場だったら要求する。しかし独立への道は武力だけではない。戦争によらなくても独立をかちとる方策として、政治闘争や外交手段で国際的な信頼を高め、認証を獲得する方法もある。残念ながら、われわれの武器は、連合軍命令で誰（だれ）にも渡してはいけないことになっている。これが戦争に敗れた日本の悲しい立場だ　その辺を分かってもらいたい」

それに対して、その男は「イギリスやアメリカに負けたからといって義理立てし、武器を彼らに渡す必要はないじゃないか。日本軍は大馬鹿ものさ。われわれに武器をくれないで敵のオランダ人に渡そうとしている。何が閣下だ。馬渕の石頭！」と怒鳴り散らし、最後に柳川大尉に向かって「おい柳川、お前だましな」と怒って席を立った。

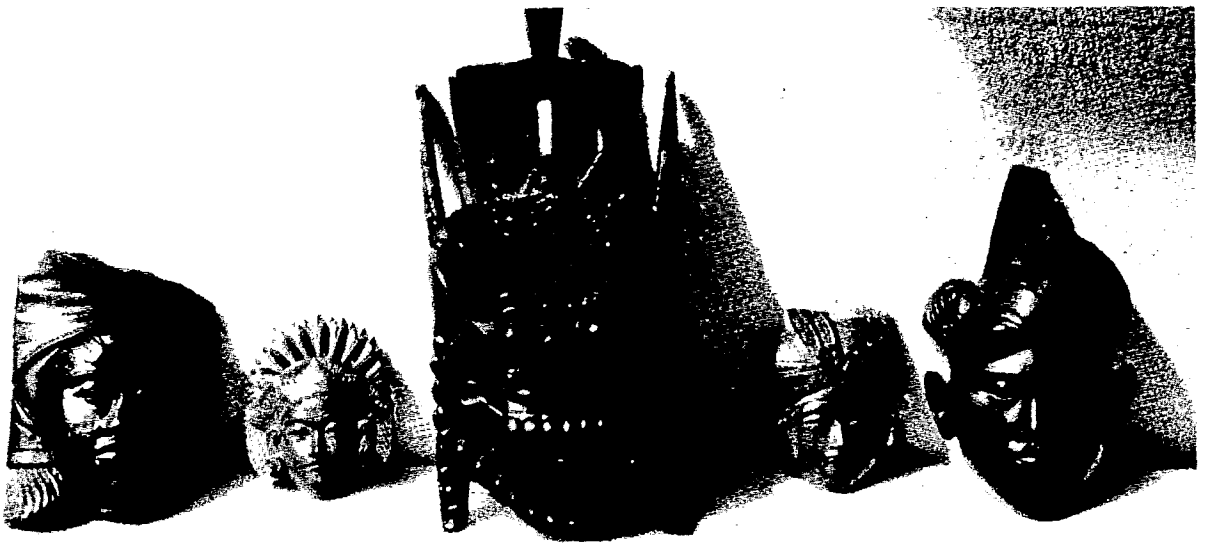
約四年間、バンドンに勤務していた関係から、この地区の主だったインドネシア人は顔見知りだったが、こんなに元気のいい人は初めてだった。私は見送りのためつきそって部屋を出た。

だった。当時の模様を金子氏に語ってもらおう。

――それは〝十月十日事件〟前日の十月九日、たまたま旅団長室に入ろうとした私は、あたりの空気を圧して怒鳴り散らしているインドネシア語に耳をすました。

「日本人の石頭。わからずや、大馬鹿（ばか）者！　この道理がわからんのか」

場所柄もわきまえず怒鳴っている男は一体何物か？　いぶかりながら私がそっと扉をあけると、そこには五



# インドネシア独立運動秘話

評論家　村上　薫

●7

## スゴノ氏優遇した馬渕将軍

部屋に戻った私は事情の一切を知った。私の親友、柳川宗成大尉は陸軍中野学校出身で、ジャワ作戦の初めオランダ軍司令官官邸に単身変装して乗り込み、降伏を早めさせた豪胆な男として有名だが、同時にインドネシア義勇軍の生みの親として知られていた。

その彼が連絡のためジャカルタから、インドネシア生まれの中島通訳を連れて出発した。まもなくバンドンに入るというところで検問に引っかかり、警察に収容されてしまった。相手は特別警察隊だった。捕らえた側は、彼が義勇軍を作った柳川大尉であることなど知るはずがない。それに、どんなに昨日までインドネシアのため尽くしてきていても、今日はどう変わるかわからぬ激動のまっただ中だった。このまま黙っていては命が危ないと考えた彼は、中島通訳を使って強引に、「武器が大量に欲しくはないか」とそこのスゴノ特別警察隊長に持ちかけた。はじめは半信半疑だったが、相手が有名な柳川大尉に間違いないことがわかると、話に乗ってきた。

「そのためには馬渕閣下に会ってくれ。彼なら話はわかるし、実権も持っている。同道して行けば話はつく。おれを信頼して一緒に司令部へ行こう。もちろん君の安全は保障する。おれをこのままぶち込んでおいても、何の意味もないよ」

――その結果、車に同乗して司令部に乗り込み馬渕将軍に会ったが、なかなかうんと言ってくれず、柳川にいっぱい食ったと感じたスゴノ氏がかんかんに怒って帰っていったのが、事のてんまつである。

それにしてもスゴノ氏はすごい男だった。インドネシアでこれほど豪胆な男を、それまで見たことがなかった。スゴノ氏が帰った日の夜明け、日本軍は行動を開始し、独立にはやるインドネシア側が奪ったり、襲撃中の諸施設の奪回に乗り出した。しかしこの軍事行動はあっけなく終わった。お互いに本気で戦う気はなかったからである。

そうした緊張の日々が続いていたある日、野田副官が私を呼び止め、スゴノ氏が捕まったことを教えてくれた。それによれば、スゴノ氏が日本軍に捕まったのは、再び飛行場奪還にきた四、五日前で、現在司令部の地下室に監禁されているという。馬渕将軍の意向は、スゴノ氏に日本人の真意をわかってもらうため、しばらくそこで休んでもらうということだった。

馬渕将軍に会うと「スゴノ君を優遇してやってくれ」という。早速、果物を買ってきて取調室でスゴノ氏に面会した。私は丁重にイスをすすめ、馬渕将軍の心情をそれとなく伝え、彼が無事でいることをインドネシア青年たちを通じて留守宅に報告させた。

収容後二週間を過ぎたころ、馬渕将軍から釈放命令が出た。周辺には「彼は二度も飛行場を占領した。連合軍に引き渡すべきだ」という意見も出たが、馬渕将軍はそれを抑えた。

収容されている間にいろいろ考えたのだろう。スゴノ氏はおとなしく馬渕将軍の前に腰を下ろした。それに対し馬渕将軍は日本の苦しい立場を説明。最後にインドネシアが立派な独立国になってほしい、貴君の健闘を祈る、と結んだ。スゴノ氏は連合軍に引き渡せば当然死刑になっていただろう。しかし馬渕将軍はそれをしなかった。

帰りの車も準備されていた。そこにはアジア人としての魂と魂の交流があった。何度もお礼を言いながら去っていくスゴノ氏の後ろ姿を、私たちは手を振りながら見送った。

## 日本の苦しい立場説明

# インドネシア独立運動秘話

評論家　村上　薫

●8○

## 独立戦争へ日本人も参加

それから半月、インドネシアの独立闘争は激しさを加え、これに対し英軍は徹底弾圧を加えた。バンドンの中央に鉄道があり、それを境に、街は南北に分かれていたが、英軍は北地区に住むインドネシア人に対し、「十二時間以内に全員南地区に移動せよ」との命令を発した。ところが、着の身着のままで住家を追われた住民が、幸地区になだれ込んで一息つくかつかぬ間に、空から英軍機が絶えにロケットによる無差別攻撃を開始した。

恐怖にまどう群衆　金子氏らは義憤に燃え、拳（こぶし）を握りしめ、残忍極まる英軍の爆撃を目撃していた。それに対し、インドネシア側は、英軍よりさらに収容所から出てきたオランダ人、約五千人が住んでいる北地区に攻撃をかけた。

火炎ビンを白人宅に投げつける前、捕虜収容所の監守をしていた木戸君は、オランダ人をなぐったことがあり、戦犯として処刑されると考え、服毒した。発見した私は彼を抱きかかえ、車で病院に駆けつけたが、間に合わず、途中で絶命したのです」（金子氏）

そのころになると、日本人の中からインドネシア側に走り、独立戦争における者が段々増えてきた。バンドン地区だけでも、ざっと百人はいたはずである。昭和二十一年一月二日、高井君が〝十月十三事件〟でインドネシアに撃たれて死亡した。それを受け入れたのはスゴノ氏である。

「高井君は、その日からスゴノ氏がつけてくれた〝プディマン（慈愛）〟という勇敢に戦い、勇名をはせた。ほかにも市来龍男、吉住留五郎氏など勇敢な日本人がいたが、彼らは惜しくも戦死した。

プディマン・高井は、馬渕さんらに会うなり、「スゴノさんは一度日本に行って、ぜひ貴君方にお会いしたいと口ぐせのように言っていました。スゴノさんは、最後は陸軍少将になり、スラバヤ地区の司令官として独立戦争を戦っていましたが、残念ながら戦病死しました。しかし、最後まで貴君のことを語っており、その時はいつも涙ぐんでいました。そして、日本に絶対的な信頼を寄せていました」と言えた。

インドネシアの独立を祈ったわれわれは、今の世では再び会えなくなってしまった。

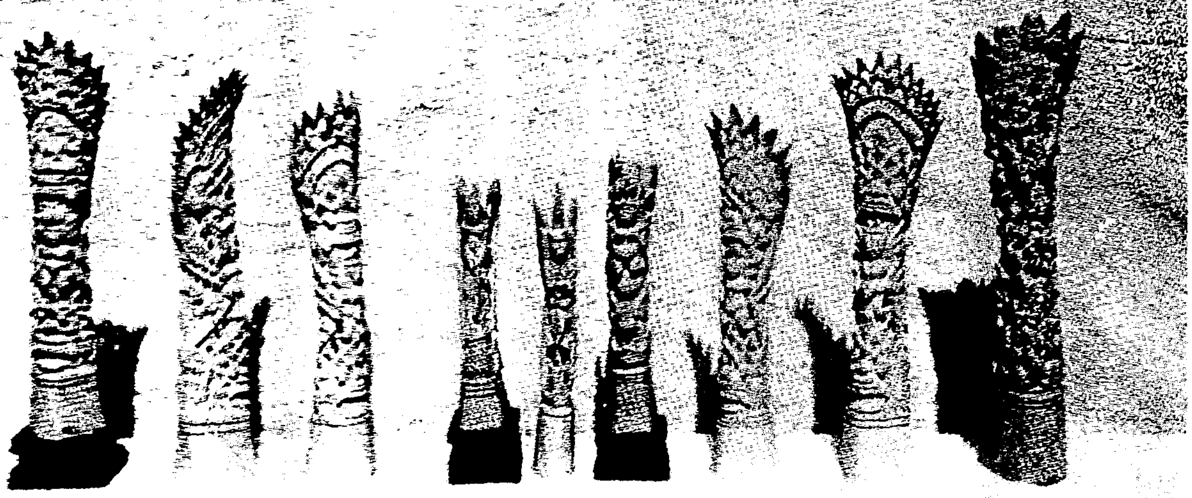
しかし、バンドンで結ばれ合った魂と魂は、時間と空間を超え、日本とインドネシア両民族を強く結ぶ心の架け橋となったことを、プディマン・高井を慕った馬渕、金子氏らは強く確信したのであった。

## 1950年9月に国連加盟

インドネシア名を名乗った。それから四日後、スゴノ氏と会ったのが、私たちにとって最後の別れとなった。連合軍から、金子は、インドネシア独立運動を支援している疑いがある、としてジャカルタの刑務所に収容されたからである」（金子氏）

かくて歳月は流れ、インドネシアは独立を勝ち取り、一九五〇年（昭和二十五年）九月、六十番目の国連加盟国になった。

一九五三年、プディマン・高井が初めて日本に帰国した。彼は、インドネシア国軍大尉として独立戦争を



# インドネシア独立運動秘話

評論家　村上　薫

●9

馬渕将軍らのアジア人との魂の交流は、ビルマ独立運動の志士との間にも行われた。金子氏に当時を語ってもらうこととする。

――二十一年九月、終戦処理に追われ、あわただしい毎日が続いていたある日、バンドンの宣伝部に五十年配の紳士が訪ねてきた。二人きりで話したいというので別室に通すと、ポケットから一通の手紙を差し出した。南方総軍の情報宣伝参謀桑原長中佐の密書だった。あわてて封を切ると「この手紙を持参する近藤義顕氏を紹介する。すべては近藤氏から聞いてくれ。生命がけで頼みます」という文面だった。

近藤氏は「これは絶対秘密です」と[illegible]。内容は、日本軍に最後まで守[illegible]ビルマ独立運動の[illegible]物を、ジャワ[illegible]てくれ、という[illegible]。

戦前、ビルマは英国領だったが、日本軍の進出で[illegible]日本軍に[illegible]

タキン・バ・セイン氏（右から２人目）

## ビルマの指導者かくまう

期、日本軍がインパール作戦に敗れるや、多くのビル[illegible]は英軍に寝返り、日本軍を襲った。そんな中であくまでビルマと日本の道義を貫き、日本人との約[illegible]を守[illegible]ビルマ人の指導者で、[illegible]れていたシンガポールに来[illegible]に敗れた[illegible]

ら英軍に捕らえられ、対日協力の罪状で死刑にされるところ[illegible]日本軍としては最後の飛行となるであろう重爆撃機で、ジャワまで送り届けるので、よろしくという言葉である。[illegible]タキン・バ・セイン氏だった。

[illegible]

## 独立運動で投獄30余回

収容所から解放された五万人近くのオランダ人がうようよしていたし、華僑も多い。そのような中で、ビルマ人をかくまうのは難しい。

しかし、中部ジャワなら白人の目が少ないから安全だろう。さいわいジャワ義勇軍育ての親の柳川大尉が各地区にイ号勤務隊という特殊部隊（米国のCIAのようなもの）を作っており、中部ジャワのマゲラン近くのサラテガにも拠点がある――というので、柳川大尉を呼び、紹介を頼んだ。

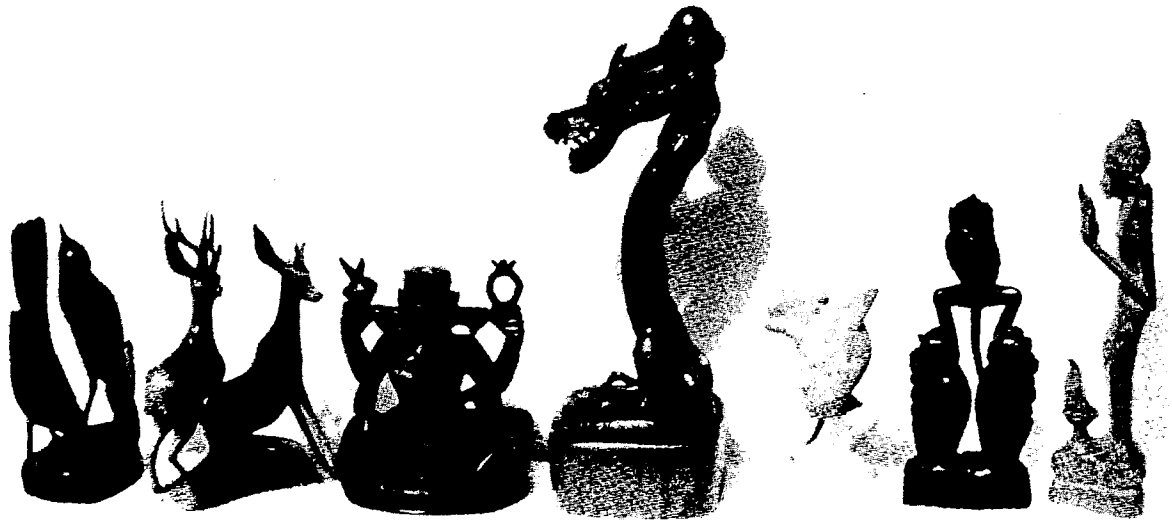
話が決まれば、一刻も猶[illegible]でも英軍によって武装解除されるかもしれない[illegible]で、気の毒なほど急ぎ出発してもらうことになった。タキン氏は、[illegible]来、反英独立運動で投獄さ[illegible]

た直魂（こたましい）をしていた。奥さんと子供四人で、その一人は乳飲児で、従者のラトン氏と近藤氏だった。馬渕将軍は二台の乗用車を準備し、金の延べ棒一本、ダイヤモンド、軍票のほか、持てるだけの衣料を贈った。精一杯の心尽くしであった。

一行を送り出して二日目、馬渕将軍からすぐ来てくれと伝言があった。早速駆けつけると、げっそりした近藤さん一行八人がいた。話を聞くと、せっかくサラテガまで行ったものの、柳川大尉の工作地区も終戦のため拠点を引き払って他へ移っており、紹介された人物にも会えなかった。どう考えても隠れきれる自信がなかったので、往復九百キロを夜どおし飲まず食わずで引き返してきたという。

直ちに柳川大尉に来てもらい、三人で相談した結果、バンドンから北東三十キロの所にチボダスという温泉が出る村がある。その近くにイ号勤務隊の工作拠点があるので、そこにタキン氏一家をかくまうことになり、馬渕将軍、柳川大尉、私の三人で[illegible]た家に案内した。

[illegible]は軍服でなく、開襟シャツ姿[illegible]という配慮だった。



# インドネシア独立運動秘話

評論家　村上　薫

●10○

## タキン氏、ビルマに帰国

私はビルマの人間でずっと前からバンドンに住んでいるが、国に帰りたいと前々から考えていたが、なかなかチャンスがこなかった」と述べ、連行された英軍司令部では「君たちではわからぬ、旅団長に会わせろ」と旅団長に会い、「私はビルマの人間だ。ビルマは戦禍で荒廃してしまっており、なんとか立派に再建したい。それについてぜひ貴君の協力を得たい」とだまし、用意された飛行機でビルマに帰国した。

実は当時、金子氏はインドネシア独立運動を支援している容疑で英軍に逮捕され、一年以上もジャカルタの監獄にぶち込まれていた最中だった。馬渕将軍から獄中にこっそり届けられた伝言でタキン氏がビルマに帰ったことだけは知ったが、どういう状況で帰ったかわからなかったので、戦犯裁判にかけられたのではないかと心配していたのである。

それから数年、戦後の混乱の中で、タキン氏のことは絶えず心の隅にかかり続けながら、その消息を知るすべもなく過ぎていたが、やがて彼に関する情報が入ってきた。一九四七年ビルマがいよいよ英国から独立することになり、時のアトリー英首相相手に最後の条件交渉を行うべく三人のビルマ代表がロンドンに向かったが、オン・サン、ウー・ソ氏らとともにタキン・バ・セイン氏の名前も入っていたのである。

アトリー首相はエリザベス女王のご前で英連邦内の一国としてビルマ独立を主張し、その他にも幾多の条件を主張した。これに対しオン・サン氏は賛成したが、タキン・バ・セイン氏は屈辱的条件だとして拒否、ウー・ソ氏とともに調印を断って帰国した。その後ビルマ政界で内紛が起こり、オン・サン氏はウー・ソー一派に暗殺され、タキン氏は容疑をかけられ一九四八年まで収容されていた。その間、共産党の反乱が起き、バ・セイン氏は容疑が晴れて釈放されると直ちにビルマ民主連盟を組織し、政界に返り咲いた。

無事に帰還していた近藤さんに連絡してタキン氏に日本に来てもらうことになり、一九五六年（昭和三十一年）十月二日についにその日を迎えた。十一年ぶりの再会だった。馬渕将軍、柳川大尉、近藤義蔵、金子智一氏らとタキン・バ・セイン氏は互いに抱き合い、生きて再会できたことを喜び合った。

タキン・バ・セイン氏は、日本がイギリスと戦ったからこそビルマが独立できたのだと公言、日本から賠償を取ってはいけないと叫び続けただ一人のビルマの指導者であった。五七年暮れ、再び来日し、藤原岩市氏や中島慎三郎氏などと会って交流を深めたが、その後病におかされ、今は亡い。

## 日本での再会喜び合う

その後二、三度、やみにまぎれて山奥の隠れ家を慰問したが、バンドンの状況がそれを許さなくなった。オランダ軍と交戦状態に入ったインドネシア側が街角に検問所を作り、インドネシア人以外の一切立ち入りを禁止したからだ。そのためスゴノ氏のところへ送ったプディマン・高井が代わって連絡役になった。

一方、タキン氏は英語はできるがインドネシア語は話せない。おまけに身なりはいいし、カネもありそうだというので、今度はインドネシア人が狙いはじめた。そこで身の危険を感じたタキン氏は、私の家の真向かいの元インラホテルのジャワ作戦記念館のすぐ下で、インドネシア側が封鎖線をしいている間近の民家に引っ越してきた。

ところがここはオランダ人が住んでいる北地区内だったので、既述のようにインドネシア側がしょっちゅう夜襲をかけてくる。それに対し掃討作戦を行っていた英軍グルカ兵部隊が民家をしらみつぶしに捜索していたが、そんなある日、タキン氏が引っかかった。

それに対し応対したタキン氏は、さすがに役者が一枚も二枚も上だった。彼は踏み込んできたグルカ兵に向かって、「諸君、ご苦労である。よく迎えにきてくれた。君たちは英軍だろう。

# インドネシア独立運動秘話

評論家　村上　薫

●11

ここで金子智一、稲嶺一郎両氏が連合軍に逮捕され、ジャカルタのグルドック刑務所で送ったムショ生活を紹介しておこう。二人とも連合軍から、インドネシア独立運動を支援した容疑で、このような目にあったのだった。敗戦の翌年、昭和二十一年一月五日、英軍司令部から「金子を明朝九時、出頭させよ」との命令を受けた時、馬渕将軍はとっさに、金子氏はきっとブデイマン・高井などと同じく日本籍を脱し、インドネシア側に身を投じるだろう、と考えたという。しかし金子氏は素直にバンドンの英軍司令部に出頭、四月機でジャカルタに送られ、刑務所生活を送るようになったのである。

実はそれ以前、〝十月十日事件〟後間もないころ、金子氏が同志の青年たちに苦ちゅうを訴えたことがある。「インドネシアに残って独立闘争に身を投じるべきか、爆撃で焼け野原になった日本に帰って祖国再建に尽くすべきか。身体は一つで思い悩んでいる」。それに対し彼らは皆で相談した結果、リーダーのアブドラ・ハミット氏とジャマル・アリー氏の二人が代表となって結論を持ってきてくれた。それは次のようなものだった。

「私たちが貴君にお願いしたいことは、このさい、いかなる恥を忍んでも日本に帰ってほしいということだ。そして立派に日本を復興し、再びインドネシアのために力を貸してくれ。私たち青年隊は貴君が長い間われわれを指導してくれたことを感謝している。そのことをわれわれは終生忘れない。今後、教えられたとおり独立運動に挺（てい）身し、死ぬまで頑張る。だから貴君も将来を期して帰国してくれ」

金子氏は泣きながら、青年たちのこの申し入れを受けとめた。そういういきさつがあったので、恥を忍んで英軍司令部に出頭したのだった。

最初は独房に入れられ毎日のように厳しい取り調べを受けたが、その後、取り調べは次第に途絶えがちになり、部屋も四十人前後の大部屋に移された。ここは炊事班で、そこの班長になった。たまたま炊事班にいた時、同じ部屋に入ってきたのが当時、海軍武官府付きだった稲嶺一郎氏（京都石油会長、前参議院議員）や陸軍軍政監部の沢田隆義氏（検事）ら、大物だった。

## 金子氏が刑務所生活

独房に入っていた時、夕方、日が沈むころになると、金子氏は鉄窓にもたれて「インドネシア・ラヤ（独立の歌、現インドネシア国歌）」を大声で歌った。彼が歌いはじめると、あちらからもこちらからもインドネシア人の歌声が聞こえ始め、しまいには合唱になる。看守がストップを命じてもだれも聞かない。そのうち看守も諦（あきら）めて何にも言わなくなった。

## 青年の申し入れ受ける

日本の歌もよく歌われたが、なかでも「真白き富士の気高さを…」が多かった。

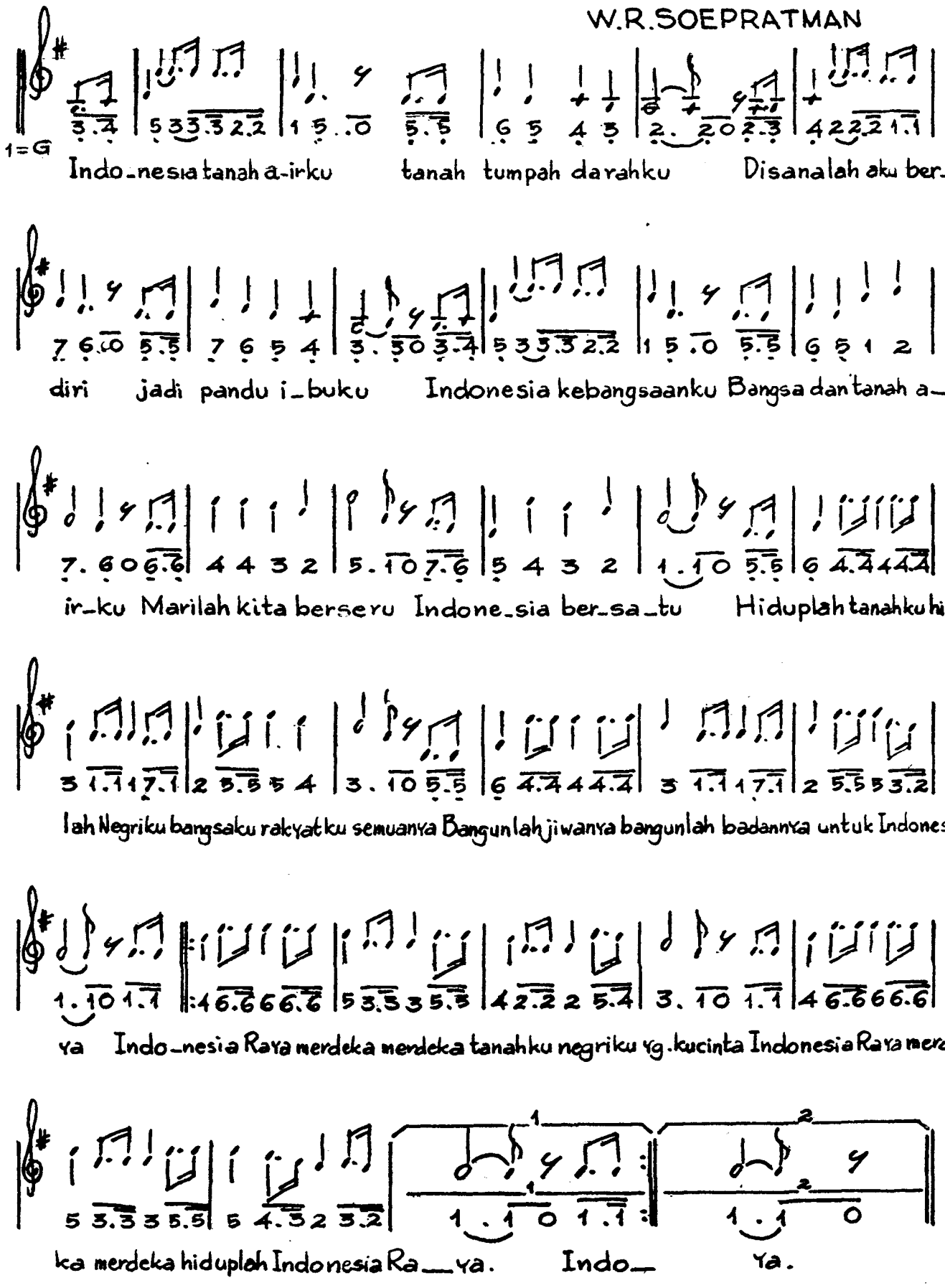
「炊事班の大部屋に入ってから、陸軍軍政監部の山本茂一郎少将もこの刑務所に入っていることを知った。山本少将は参謀長だったので、ずっと独房で取り調べも長く続いていたようだった。私たちの部屋には浜口君ら外務省の役人が二人いて、彼らは取り調べの時、通訳に使われていた。お陰で私たちにはいろいろな人々の取り調べ内容がわかった。そこで、沢田君や金子君、それに外務省の二人と私が集まって、山本少将に関係のありそうな情報を独房にいる山本少将に流すことにした。さいわい炊事班長だった金子君が毎日、各部屋に食事を配っていたので、情報を書いたメモをパンの間にはさんで山本少将に届けた」（稲嶺一郎氏）

昭和二十一年も後半に入って、稲嶺、金子氏らはようやく釈放された。すでに一年以上もの刑務所生活だった（稲嶺氏は十カ月）。

「昭和二十二年二月二日、私は宇品に上陸した。その日は戦後初めての官公労ゼネストがマッカーサー命令で中止された翌日だった。日本の社会も変わり果て、戻る職場もなくなっていた。が、私の心の奥にはジャフで別れた青年たちのことが、いつもかかわり続けていた」（金子氏）

# INDONESIA RAYA

W.R.SOEPRATMAN



編集後記

新年おめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

巻頭の後藤総領事のご挨拶にもあるとおり、マカッサルの総領事館は名称変えとなりました。業務内容は変わらないとのことですが、総領事館が出張所みたいな名称になるのはやはり淋しい気がします。

今号は外国人就業の問題をとりあげました。当事者の一人である茨城県大洗在の坂本氏、近海まぐろ漁船の外国人雇用（研修を含めて）について沖縄の金城氏、両名に執筆をお願いしました。1,000万人移民受け入れ案も出るような日本国の状況ですが、外国人就労の実態については一般にあまり知られていません。また、北スラウェシ州は日系人が多いこともあって、(日本での)不法滞在、脱船逃亡などのよからぬ問題ではいつもからんでいます。我々にとってこの問題は他人ごとではありません。

昨年９月、沖縄大学上田ゼミ一行の北スラウェシ研修旅行に合わせて、日本人墓地の慰霊祭を執り行いました。多くの会員のご参列をいただきました。あらためてお礼を申しあげます。慰霊祭および研修旅行関連の原稿もいただきました。

御前崎の川口さんはかつお節だけでは物足りないのか、考古学の世界にも足をふみいれたようです。忙しいことはいいことです。実績のご報告は「タルシウス」に寄せることになっています。川口さんは来る２月に奥様ともども当地にこられるそうです。トモホンでの再会が楽しみです。

東京の石野さんは、前号に引き続きエチオピアの紹介です。次号もよろしくお願いします。

巻末に付した「インドネシアよ永遠なれ」は元・陸軍報道班員金子智一（ともかず）氏のナラリヤ勲章授章記念誌（1989年４月）で、大岩さんの書棚から引っ張り出されたものです。村上薫さんによる「インドネシア独立運動秘話」は、題名どおり掛け値なしの独立運動秘話でしょう。当会会員のみならずインドネシア在住全日本人必読。じっくりお読みください。

表紙はいつものとおり羽根井さんです。モデルはレンベ島のウミウシです。

終わりになりましたが、当会の最長老・青木さんは昨年から日本で病気療養中です。一日も早い回復をお祈りいたします。

長崎